

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、
ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・パ
ラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、
ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホルランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリ
ストファーンソン

編集長: ジェイ・E・ジェンセン

顧問: ゲーリー・J・コールマン、菊地良彦、ジェラルド・N・ランド、W・ダ
ラス・シャムウェー

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ビクター・D・ケーブ

主任編集者: ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長: ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐: スーザン・バレット

編集スタッフ: クリステイ・バンズ、リンダ・ステール・クーパー、デビッド・
A・エドワーズ、ラリー・ポーター・ガント、キャリー・カステン、ジェニ
ファー・マディ、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデ
カーク、ジュディス・M・パーラー、ビビアン・ポールセン、ジョシュア・J・
パーキー、キンバリー・リード、リチャード・M・ロムニー、ドン・L・サル、
ジャネット・トーマス、ポール・バンテンバーグ、ジュリー・ワーデル

主任秘書: ロレル・トイスチャー

マーケティング部長: ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター: M・M・カワサキ

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ: カリ・R・アロキ、コレット・ネベカー・オース、ハ
ワード・G・ブラウン、ジュリー・バーテッド、トーマス・S・チャイルド、レジ
ナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、エリック・P・ジョン
セン、デニス・カービー、ギニー・J・ニコルソン、ランドール・J・ビクストン

印刷ディレクター: クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター: ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ
……〒1133-0057東京都江戸川区西小若5-8-6/末日聖徒イエス・
キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所: 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価: 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、
以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アビラニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウク
ライ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア
語、ギリシャ語、キリバス語、クオアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデ
ン語、スペイン語、スロベニア語、セブア語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、
タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本
語、ノルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒスマラ語、ヒンディー語、フィジー
語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポ
ルトガル語、マニラ語、マダガスカル語、モンゴル語、ロシア語、トリアニア
語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2008 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭におい
て臨時に、また非営利目的に使用することは複写することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている
場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール—
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

「リアホナ」は、教会のホームページ www.lds.org (英語)に様々な言語で
掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をク
リックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

December 2008 no. 12 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-
4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day
Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription
price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals
Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of
address. Include address label from a recent issue; old and new address must
be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution
Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit
card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.
(Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



20 あなたがたの行いを奉獻しなさい



40 記憶の中のジョセフ

一 般

- 2 大管長会メッセージ——人生で最高のクリスマス トーマス・S・モンソン大管長
- 8 宿屋の空き部屋 ニール・L・アンダーセン長老
- 20 福音クラシック——あなたがたの行いを奉獻しなさい ニール・A・マックスウェル長老
- 25 家庭訪問メッセージ——イエス・キリストは世の光であり命であり希望であられる
- 34 神殿に集いなさい クラウディオ・R・M・コスタ長老
- 37 パートメンバーの家族にもたらされた神殿の祝福 ケイ・ブルジビル
- 40 記憶の中のジョセフ
- 44 末日聖徒の声
わすかしかなくても、それで十分でした スエリ・デ・アキノ
国を横断して届いたクリスマスキャロル ヘザー・ポーシャン
最高のクリスマスプレゼント ケティ・テレサ・オルティス・デ・アリスメンディ
思いがけない教訓 エリン・ウィルソン
- 48 読者からの便り

家庭の夕べのためのアイデア

以下の提案は、家庭だけではなくク
ラスでのレッスンにおいても
役立てることができます。
皆さんの家庭やクラスに
合わせて変更を加えてもよ
いでしょう。

「宿屋の空き部屋」8ペー
ジ——この記事に登場
する車の中にいるつも
りで、1枚の毛布の下で皆が体を寄
せ合います。記事の物語を話して聞
かせます。クリスマスの夜をバンで過
ごすのがどういうことか話し合いま
す。宿の主人が、どのようにその家族
に奉仕したかについて話し合います。



このクリスマスの季節に、家族では
かの人々に奉仕できる方法につい
て、祈りの気持ちで計画しましよ
う。

「クリスマスの奇跡」12ページ

——宣教師たちの経験につ
いて家族に話します。宣教師
の歌声が列車に乗ってい
た人々にもたらした喜び
について話し合います。

だれかのために家族でできるクリ
スマスのプロジェクトを計画します。

「あなたがたの行いを奉獻しな
さい」20ページ——踏み石の代わりと
して、石または紙といったものを5つ
選びます。選んだもの一つ一つに、

こんげつごう
 今月号のどこかに隠れている
 ポルトガル語のCTRリングを捜しながら、
 家族に愛を示すことを通して
 どのように正義を選ぶことができるか
 考えてみましょう。



青少年

- 7 ポスター——神はあなたを愛してくださった
- 12 クリスマスの奇跡 ライアン・キャンベル
- 15 アドベントカレンダー——キリストの降誕の預言
- 26 質疑応答——祈りの度に同じことを言ってしまう。単なる繰り返してではなく、祈りをもっと有意義なものにするにはどうしたらよいでしょうか。
- 28 主イエスの愛にただ驚く ジェフリー・R・ホランド長老



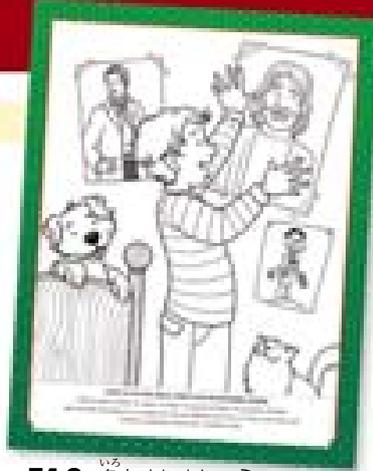
7 ポスター

項の表題を書いては、それぞれの項について話し合いながら、踏み石を順に進みます。同時に、記事で引用されている聖文を読んでもいいでしょう。人生で直面するつまずきの石について話し合います。最後に、記事の最後の数段落を読みましょう。

「主イエスの愛にただ驚く」 28 ページ——「喜びの再会」の項を、帰還した宣教師が家族に近づいて来るところまで読みます。その宣教師のもとにだれが最初に走り寄るか、家族に予想してもらいます。物語を読み終えてから、親が子供に抱く愛や、わたしたちすべてに対して天の

御父が持っておられる愛について話し合ってください。

「内緒のおくり主」 F14 ページ——デビッドの物語を家族に話します。デビッドは何を学びましたか。「内緒のおくり主」になるというデビッドの模範に倣って、次の中から一つを行きましょう。(1) 近所で孤独な人や助けが必要な人、またはそのような家族を祈りの気持ちで選びます。その人たちの役に立つ奉仕を計画します。(2) 家族の名前を一人ずつ別々の紙に書きます。その中から一人の名前を選び、今週、その人に内緒で奉仕をします。



F13 色をぬりましょう



F2 光をたよりに

フレンド

- F2 大管長会から世界中の子供たちへのクリスマスメッセージ——光をたよりに
- F4 分かち合いの時間——イエスさまの語間かせて リンダ・クリステンセン
- F6 ちいさなみんなのために——イエスにあいをしめす ジェーン・マックブライド・チョート
- F8 すばらしいこうたんのぼめん
- F10 よげんしゃジョセフ・スミスのしょうがいから——よげんしゃの じゅんきょう
- F13 色をぬりましょう
- F14 内緒のおくり主 シャーロット・グッドマン・マキューワン

表紙

「降誕」ジョン・マクナートン画

「フレンド」表紙

「クリスマスイブの劇」マージー・オルセン画

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略	慈愛, 2, 8, 44, 47
愛, 7, 28	従順, 20
あかし証, 15	象徴, 28
贖い, 20, 25, 28	初等協会, F4
イエス・キリスト, 2, 7, 15, 20, 25, 28, 47, F2, F4, F8, F13	神殿, 34, 37
祈り, 8, 15, 26	スミス, ジョセフ, 40, F10
歌う, 12, 15, 45	聖文, 15, F4
改宗, 改心, 46	伝道活動, 8, 12, 46
家族, 15, 37, 45	光, 25, F2
家庭の夕べ, 1, 15	平安, 平和, 37
犠牲, 28, 34	奉獻, 20
クリスマス, 2, 8, 12, 15, 45, F2, F8, F14	奉仕, 2, 8, 15, F14
結婚, 37	ホームティーチング, 2
降誕の場面, F8	模範, 37, 47
賛美歌, 12, 28	ゆる教し, 28
	預言, 15



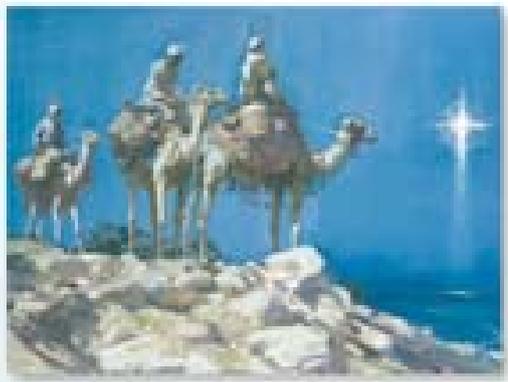
人生で 最高のクリスマス

トーマス・S・モンソン大管長

この時季になると、至る所からクリスマスの音楽が聞こえてきます。好きなクリスマスの歌を聞くと、家が懐かしくなり、過ぎ去ったクリスマスを思い出します。このような歌です。

クリスマスになると
我が家に帰りたくなる
どんなに遠く離れていても
我が家には数え切れない喜びがあるから
クリスマスになると、帰りたくなる
懐かしい我が家¹

ある作家はこう述べています。「またクリスマスが来た。クリスマスは心の故郷だ。その神秘性と、雰囲気と、魅力によって他から分けられたこの季節は、ある意味で時間という枠組みの外側に存在している。大切なものすべてが、



永遠に続くものすべてが、また再び心に根を下ろす。わたしたちは再び我が家に帰って来たのだ。」²

デビッド・O・マッケイ大管長(1873 - 1970年)はこのように宣言しています。「真の幸福はほかの人を幸福にすることによってのみ得られます。すなわち、自分の命を得るには、自分の命を失う必要があるという救い主の教義を実生活に応用することです。要するに、クリスマスの精神はキリストの精神です。キリストの精神は兄弟愛と友情の炎を燃え上がらせ、親切な奉仕の行いに導いてくれます。

それはイエス・キリストの福音の精神です。その精神に従うなら『地に平和』がもたらされます。なぜなら、クリスマスの精神とは『すべての人に対する善意』という意味だからです。』³

得ることではなく、与えることにより、クリスマスの精神は大きく花開きます。敵を救^{ゆる}し、友を思い出し、神に従うのです。クリスマスの精神は人の心の見晴らし窓にイルミネーションを施します。わたしたちはその窓から外を見て、世の忙しい生活を見詰めます。そして物よりも人に関心を抱くようになるのです。「クリスマスの精神」の真の意味を理解するには、「クリスマス」の最後の音節を読まなければよいのです。そうすれば「キリストの精神」となるのです(訳注——英語の「クリスマス」[Christmas]の最後の音節を読まなければ「キリスト」[Christ]となる)。



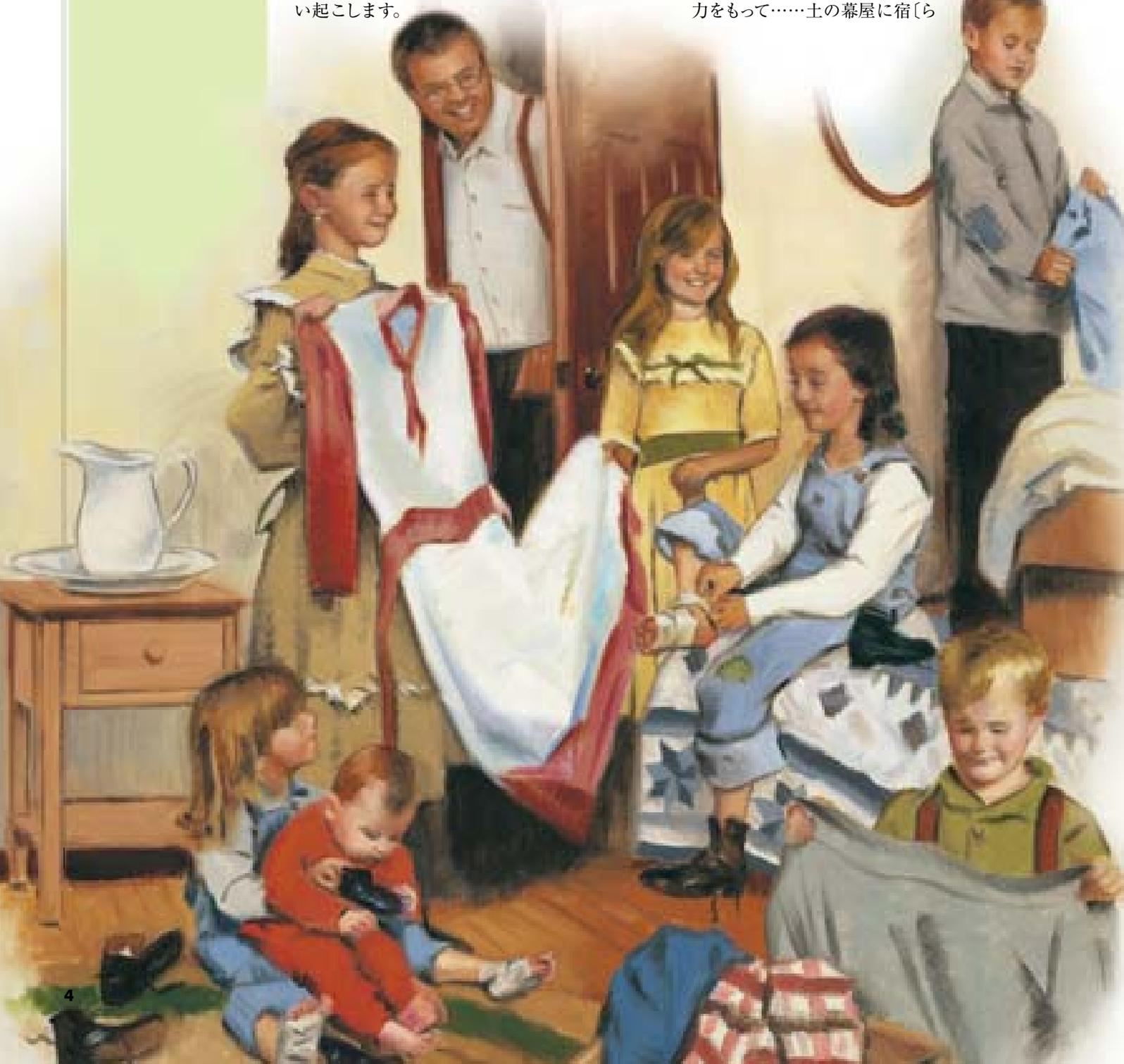
**得ることではなく、
与えることにより、
クリスマスの精神は
大きく花開きます。
わたしたちは
物よりも人に関心を
抱くようになるのです。**

主を思い起こす

クリスマスの精神を持つとき、一年のこの時期にその降誕を祝う御方、すなわち主を思い起こします。いにしへの預言者が預言した、あの最初のクリスマスの日に思いをはせるのです。皆さんはわたしと一緒にイザヤの言葉を思い起こします。

「見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる。」⁴ ——インマヌエルとは「神われらとともにいます」という意味です。

アメリカ大陸では、預言者たちはこう述べました。「全能の主が、力をもって……土の幕屋に宿〔ら



れる]……時が来る。しかもそれは遠い先のことではない。……この御方は数々の試練に耐え、……苦痛……に耐えられる……。……この御方は、イエス・キリスト、神の御子……と呼ばれる。』⁵

そしてあの最も崇高な夜が訪れました。羊飼いらが野原にいと、主の天使が現れ、救い主の降誕を告げたのです。後に、東から博士たちがエルサレムへ旅して来て言いました。「『ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました。』……

彼らはその星を見て、非常な喜びにあふれた。

そして、家にはいって、母マリヤのそばにいる幼な子に会い、ひれ伏して拝み、また、宝の箱をあけて、黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた。』⁶

時代は変わり、年月が瞬く間に過ぎ去りましたが、クリスマスは相変わらず神聖です。このすばらしい時満ちる神権時代にあって、自分をささげる機会は確かに数限りなくありますが、そのような機会はすぐに過ぎ去ります。喜ばせるべき心があります。語るべき親切な言葉があります。与えるべき贈り物があります。なすべき行いがあります。救うべき魂があります。

クリスマスの贈り物

1930年代の初め、マーガレット・キシレビッチと妹のネリーは、隣人のコーズィッキ家族にクリスマスの贈り物をしました。コーズィッキ家族はそのことを生涯忘れず、その経験を思い起こす度に彼らの霊は鼓舞されました。

当時マーガレットはカナダ・アルバータ州ツーヒルズに住んでいました。そこはおもにウクライナやポーランドからの移民が住む農村で、大家族が多く、生活は非常に貧しいものでした。大恐慌の時代でした。

マーガレットの家族には、父母と15人の子供がいました。マーガレットの母親は勤勉で、父親は進取の気性に富んでいました。子供がたくさんいたので、家族の中に多くの働き手がありました。そのため、家庭の雰囲気はいつも温かく、質素な暮らしではありましたがひもじい思いをすることは一度もありませんでした。夏には庭の畑にたくさんの作物がなり、ザ

ワークラウトやカッテージチーズ、サワークリーム、ピクルスなどを作り、ほかの人と交換しました。鶏、豚、肉牛も飼っていました。現金はほとんどありませんでしたが、こうしたものを、自分では作れないほかのものと交換することができました。

マーガレットの母親には、母国から一緒に移って来た友達が数人いました。友人たちは共同で雑貨屋を所有していて、そこは地域の物々交換所になっていました。人々は使わなくなった中古衣料品や靴などを寄付したり、交換したりしていました。このような中古品の多くがマーガレットの家族に流れて来ました。

アルバータの冬は寒く、長く、厳しいものです。特に寒くて厳しいある冬のことでした。マーガレットと妹のネリーは隣人のコーズィッキ家族の貧しい暮らしに気づきました。(コーズィッキ家族も農家で、数マイル先に農場を持っていました。) コーズィッキ家の父親は、自分で作ったそりに子供たちを乗せて学校へ送って行くと、家へ帰る前に必ず校舎の中へ入って、だるまストーブで体を温めていました。家族は皆、靴の代わりに、ぼろ布や麻袋を細長く切って足に巻き付け、中にわらを詰め、麻ひもで縛っていました。

マーガレットとネリーは、子供たちを通して、コーズィッキ家族をクリスマスの食事に招待することにしました。

ただし、この招待のことは、自分たちの家族のだれにも内緒にしておくことにしました。

クリスマスの日の朝が明けました。マーガレットの家族は皆、正午のごちそうの準備に大忙しでした。特大のローストポークが前の晩からオープンに入っています。ロールキャベツ、ドーナツ、ブルー入りパン、特製カラメルポンチなどが早くから出来上がっていました。さらに、ザワークラウト、デイルピクルス、野菜などが食卓を彩るようになっていました。マーガレットとネリーは新鮮な野菜を準備する担当でした。ジャガイモやニンジン、赤カブの皮をむいていると、どうしてそんなにたくさんむくのかと母親に何度も聞かれました。でも、二人は皮をむき続けました。

13人もの人を乗せた馬ぞりが、小道をこちらへ走って来ました。最初に気づいたのは、父親でした。馬が大好きな父親は、遠くからでも馬の姿を判別することができたのです。父親は母親に尋ねました。「どういうわけでコーズィッキ家が



うちへ来るのかい?」母親は答えました。「さあねえ。」

コーズィッキ家族が到着しました。マーガレットの父親はコーズィッキ氏に手を貸して馬を馬屋に入れました。コーズィッキ夫人はマーガレットの母親を抱き締め、クリスマスに招待してくれたお礼を述べました。そして、全員がにぎやかに家の中へ入り、お祝いの食事が始まりました。

最初に大人たちが食べました。それから皿や食器を洗った後で、今度は子供たちが交替で食べました。すばらしいごちそうでした。分け合って食べることで、ますますおいしくなりました。みんなが食べ終わると、クリスマスキャロルを一緒に歌いました。そして大人たちはまた腰を落ち着けておしゃべりを続けました。

慈愛を行いて表す

マーガレットとネリーは子供たちを寝室へ連れて行き、ベッドの下から幾つか箱を引っ張り出しました。箱の中には、雑貨屋を経営している母親の友人たちからもらった中古衣料品がたくさん入っていました。楽しい大騒ぎとなりました。みんな自分の欲しい服や靴を身に着けて、即席のファッションショーが始まりました。あまりの騒ぎに、マーガレットの父親が何をしているのか見に来ました。父親は子供たちの楽しそうな姿と、「新しい」服を着て大喜びしているコーズィッキ家の子供たちを見て、ほほえんで言いました。「続けなさい。」

午後の早い時間、日が沈んで暗く寒くなる前に、マーガレットの家族は友人の家族を見送りました。帰るときには、みんなおなかがいっぱいで、暖かい服と靴に身を包んでいました。

マーガレットとネリーはコーズィッキ家を招待したことをだれにも話しませんでした。秘密が分かったのは、1998年、マーガレット・キシレビッチ・ライトの77回目のクリスマスでした。そのとき初めて家族に話したのです。それは人生で最高のクリスマスだったとマーガレットは言いました。

わたしたちも人生で最高のクリスマスを過ごしたいと思うなら、あの革の履き物の足音に耳を澄まさないでなりません。あの大工の御手の方に向かって、自分の手を伸ばさなくてはなりません。あの御方の足跡を一步一步たどりながら、わたしたちは疑いを捨て、真理を手にするのです。

ナザレのイエスについて、こう言われています。「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。」⁷ わたしたちは主の模範に従おうと決心しているでしょうか。聖文の一節には、わたしたちの主であり救い主である御方をたたえる言葉が書かれています。「イエスは、神が共におられるので、よい働きをしながら、……巡回されました。」⁸

このクリスマスの時季にあつて、またこれから訪れるすべてのクリスマスにあつて、わたしたちが主の足跡をたどることができるよう祈ります。そうするならば、どのクリスマスも人生で最高のクリスマスになるでしょう。■

注

1. アル・ステイルマン作詞、ロバート・アレン作曲、「Home for the Holidays.」
2. エリザベス・ボーエン、「Home for Christmas.」メアリー・エンゲルブライト、Believe: A Christmas Treasury (1998年)、27で引用
3. デビッド・O・マッケイ、Gospel Ideals (1953年)、551
4. イザヤ7:14。マタイ1:18-25も参照
5. モーサヤ3:5、7-8
6. マタイ2:2、10-11
7. ルカ2:52
8. 使徒10:38

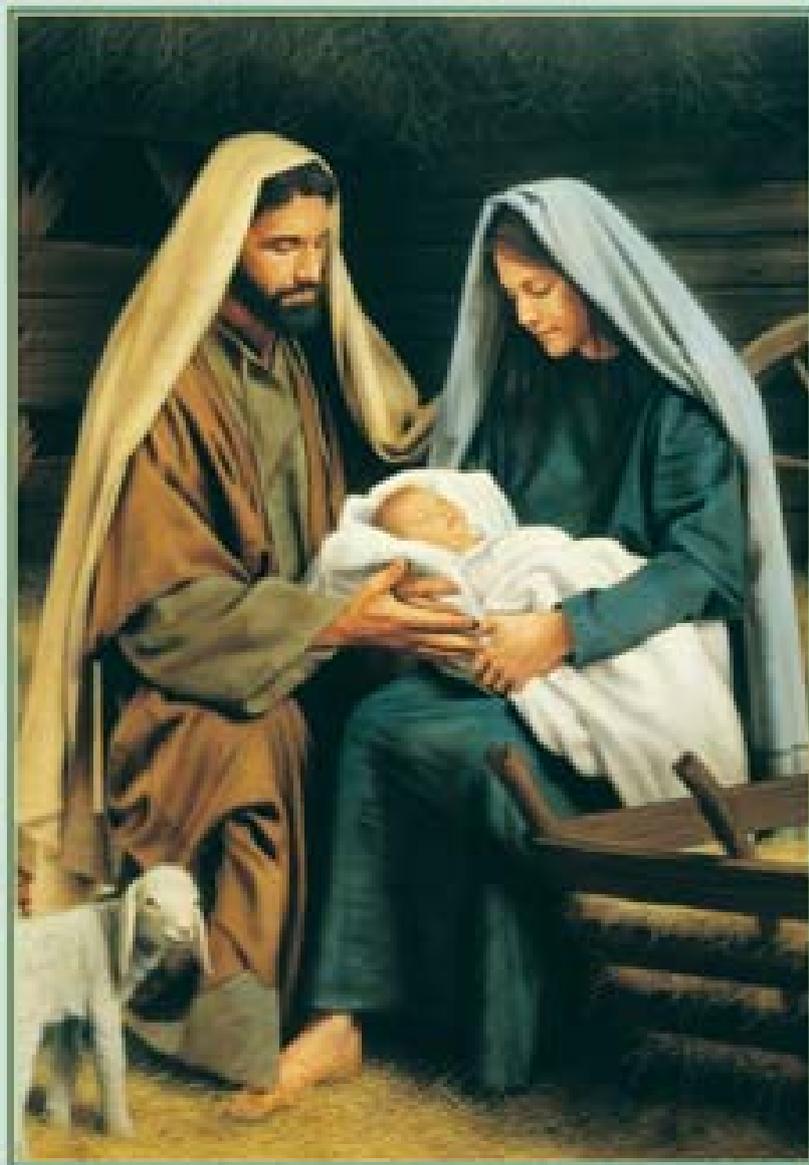
ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 家族にマッケイ大管長の引用文を声に出して読んでもらう。わたしたちも人生で最高のクリスマスを過ごしたいと思うなら、キリストの足跡をたどらなくてはならない。家族に自分の足の形をなぞって書いてもらう。ホームティーチャーが帰った後に少し時間を取って、他の人のためにできる奉仕の行いを各々の足跡に祈りの気持ちで書くように勧める。救い主の絵を用意して、絵に近づいて行くように足跡の紙を置くよう提案する。こうすれば、奉仕によって主に近づけることを思い起こすことができる。

2. 思い出に残っているクリスマスの経験を2つか3つ話そう家族に勧める。その経験はなぜすばらしかったのだろうか。コーズィッキ家族の経験を読むかまたは話す。今月、自分以外のだれかがクリスマスの時季を楽しめるように、その人のために奉仕する方法を考えるように家族に勧める。

神はあなたを愛してくださった



そのひとり子を賜わったほどに
(ヨハネ3:16参照)



宿屋の 空き部屋

七十人会長会

ニール・L・アンダーセン長老

よく晴れた気持ちのよい冬の午後、わたしたちはバンで、フランスのボルドーにある伝道本部に向かっていました。それは1990年12月24日のことで、わたしたちはクリスマスを伝道本部で祝うための帰路にありました。

妻のキャシーとわたしは4人の子供たち、キャミー(14歳)、ブラント(13歳)、クリステン(10歳)、デレック(8歳)と一緒に、心に残る1週間を過ごしたばかりでした。伝道部の管轄地域が広範囲にわたってるため、クリスマスを祝うために宣教師たちを一か所に集めることはしませんでした。代わりに、わたしたち家族は伝道部内のすべての都市を訪れ、宣教師たちに家族とともに過ごす気持ちを味わってもらいました。我が家の子供たちには、各訪問先でクリスマスの特典プログラムを発表してもらいました。わたしたち家族は、一年のこの輝かしい時節に、キリストの回復された福音を分かち合うというすばらしい特権に浴していることを、一人一人の宣教師とともに喜び合いました。

訪問の最終日、4人の宣教師がわたしたちに同行していました。大きな青いバンはぎゅう

ぎゅう詰めになっていると同時に、クリスマスの精神にも満たされていました。クリスマスキャロルを歌い、大好きな物語を聞きながらの移動だったので、時間がたつのが早く感じられました。クリステンとデレックは、クリスマスの朝のプレゼントのことを考え、1時間ごとに期待をふくらませていました。わたしたちの帰りを待つ夫婦宣教師が伝道本部で用意している、七面鳥料理のよい香りが漂っているかのようでした。クリスマスの雰囲気を感じました。

異変があるかもしれない気づいたのは、夕方になってからでした。その日の午前中、バンのギアがスムーズに入らないことが何度もあったのです。車を止めて、トランスミッション液の残量を確認しましたが、どこにも問題はなさそうでした。辺りは暗くなりかけていて、車を止めた場所はボルドーからまだ2時間離れているのに、ギアは3速、4速、5速にまったく入らなくなりました。

わたしたちは2速で、田舎の並木道を、のろのろと進んで行きました。このままボルドーまで運転するのは恐らく不可能だと判断し、わたしたちは助けを探しました。



彼は即座に
頭と指を振りました。
クリスマスの
寛大な精神が、
彼の心を
満たしていました。
「いいえ、何も
受け取りませんよ」
と彼は言いました。



最初に望みをかけたのは、ちょうど閉店の準備をしていたコンビニエンス・ストアでした。近くにレンタカーを借りられる場所、もしくは駅がないか尋ねました。しかしそこは大都市からも小さい町からも遠く、期待した答えは得られませんでした。

わたしは車に戻りました。年下の子供たちの顔に、不安と失望が浮かんでいました。この子たちはクリスマスイブに家に帰れないのでしょうか。一年でいちばん特別な夜を、ぎゅうぎゅう詰め伝道部のバンで過ごすのでしょうか。故郷から遠く離れて暮らす宣教師を励まし幸せを運んで来たというのに、この子たちは、自分の家から遠く離れた、人里離れたフランスの田舎道でクリスマスを迎えることになるのでしょうか。

クリステンはだれに願い求めればよいか知っていました。そして、すぐに祈ることを提案しました。これまでに何度も、宣教師や求道者、教会員、指導者、フランスの人々、わたしたち家族など、助けが必要な人たちのために家族全員で祈ってきました。わたしたちは頭を垂れ、謙遜に助けを願い求めました。

辺りはすでに暗くなっていました。人がジョギングするのと同じくらいのペースで、バンはゆっくりと松林の中を進みました。わたしたちは3マイル(5キロ)先の小さな町にたどり着けるように望んでいました。しばらく行くと、車のライトが小さな標識を捕らえました。ビルヌーブ・ド・マルサンの方角を示しています。

ポーからボルドーまでの2車線道路なら何度も走ったことがありますが、小さな町ビルヌーブ・ド・マルサンへ行く道を通ったことはありません。どうにかこうにか町にたどり着くと、フランスの典型的な小集落が目に入りました。家々や小さな店が軒を連ねて建ち並び、町へ続く細い道をいっそう窮屈に感じさせます。人々は早々と家のよろい戸を閉じ、通りは暗く、人影もありません。町の中央にある古いカトリック教会の光だけが、この町に住んでいる人がいることを示していました。その光は伝統的な真夜中のミサに備えて明るく輝いていました。教会を通り過ぎたところで、バンはがたがたと揺れて、止まってしまいました。幸運にも、車が止まったのは美しい田舎宿の前でした。宿の明かりがつかっています。これが助かる最後のチャンスだと思いました。

大勢で押し掛けて宿にいる人を圧倒しないように、キャシーとキャミーと宣教師を車内に残し、下の3人の子供たちを連れて行きました。わたしはフロントにいた若い女性に事情

を説明しました。子供たちの表情から追い詰められた様子を見て取ったのでしょう、彼女は優しく、宿屋の主人のフランシス・ダローズ氏を呼ぶのでしばらく待つように言いました。

キャミーが様子を見に来ました。ダローズ氏を待つ間、わたしは声を出さずに感謝の祈りをささげました。今夜中にボルドーへはたどり着けないかもしれない、けれども、きれいなホテルに導いてくださった天の御父は、何と優しい御方なのだろう! フランスの田舎道で、車中で夜を過ごすことになっていたかもしれないことを考えると、身震いがしました。隣の部屋はレストランでしたが、驚いたことに、クリスマスイブに開店していました。おいしい食事を食べ、熱いシャワーを浴び、心地よい眠りに就けるでしょう。

ダローズ氏が伝統的なフレンチシェフのかつこうで現れました。白い上着の2列のボタンがあごのすぐ下までかかっています。彼はホテルのオーナーであり、町の重鎮でした。それだけでなく、彼が紳士であることが、温厚なひとみと、すぐに笑顔を見せてくれたことから分かりました。

わたしは彼に、わたしたちが困った状況に陥っていることや、10人でバンに乗ってボルドーに向かっていることを説明しました。彼はわたしの発音が独特であることに気づいたようです。それで、わたしたちがアメリカ人であることと、フランスにいる理由を手短かに説明しました。

話を聞くが早いか、彼はわたしたちを助けようとしてくれました。10マイル(16キロ)ほど先に中都市があり、列車が運行しています。彼は電話で尋ねてくれましたが、ボルドー行きの次の列車はクリスマスの朝の10時15分まで来ないとのことでした。その中都市のレンタカー会社はすべて閉店していました。

年下の子供たちの表情に、落胆の色がありありと浮かびました。わたしはダローズ氏に、宿屋に家族と宣教師が泊まれる空室があるか尋ねました。家には着けなくとも、少なくともこのような宿泊施設を見つけられたことは大きな祝福でした。

ダローズ氏は子供たちを見ました。出会って数分しかたっていないのに、彼の心は大海をも越える兄弟愛に動かされました。そして、彼の兄弟愛がわたしたちを一つの家族にしました。クリスマスの寛大な精神が、彼の心を満たしていました。「アンダーセンさん、もちろんここにお貸しできる部屋はあります。しかし、クリスマスイブを宿屋で過ごしたくはないでしょう。子供たちは家に帰るべきです。クリスマスの朝を楽しみに待っているのですから。わたしの車をお貸しますよ。そうすれば今夜ボルドーに帰れるでしょう。」





御父にしか
わたしたちを
家に帰らせることが
できないときに、
御父は
わたしたちの祈りに
こたえてくださいました。

わたしは彼の心遣いに驚きました。ほとんどの人は、見知らぬ人、特にわたしたちのような外国人を警戒するのではないのでしょうか。わたしは礼を言いました。しかしわたしたちは10人なので、フランスの小さな車には乗り切れないことを話しました。

彼は一瞬ためらいましたが、そのためらいによって兄弟愛はなえるところかさらに膨らみました。

「ここから10マイル(16キロ)ほど先のわたしの農場に古いバンがあります。農業用に使っていて、座席は前に二つしかありません。時速45マイル(70キロ)ほどしか出ませんし、暖房もよく効かないかもしれません。それでもよければ、10マイルあなたを乗せて、車を取りに農場へ行きますよ。」

子供たちは喜んで躍り上がりました。わたしはポケットに手を入れて、現金かクレジットカードを探しました。彼は即座に頭と指を横に振りました。

「いいえ、何も受け取りませんよ」と彼は言いました。「クリスマスが終わったら、時間のあるときに車を戻しに来てください。今夜はクリスマスイブです。家族を家に連れて帰ってください。」

真夜中を過ぎてしばらくすると、ボルドーの明かりが見えてきました。子供たちと宣教師たちは、宿屋の主人のバンの後部で、眠りに落ちていました。家に続く見慣れた道を運転しながら、キャシーとわたしは、優しい天の御父に、わたしたち自身のクリスマスの奇跡について感謝しました。御父にしかわたしたちを家に帰らせることができないときに、御父はわたしたちの祈りにこたえてくださいました。

ビルヌーブ・ド・マルサンの宿屋に空き部屋があったにもかかわらず、わたしたちはクリスマスイブに家に着いたのです。■

本稿「宿屋の空き部屋」(Room in the Inn)は、*Christmas Treasures* (Deseret Book, 1994年)に収録されています。



クリスマスの 奇跡

ライアン・キャンベル

□ シア・モスクワ伝道部の冬は、冷たい季節です。宣教師にとって、これは天候ばかりか、時には人々の態度にも当てはまります。人々の気持ちは内向的になるのです。仕事が終わると足早に帰宅する人ばかりのように見えます。人々は不機嫌で、道路はひどく滑りやすく、冷気は露出した肌に容赦なく突き刺さります。笑顔を見ることはめったにありません。

こんな中で、同僚とわたしは2005年の冬を迎えていました。信仰と希望と愛というわたしたちのメッセージを分かち合い、人々を励ましたかったのですが、耳を傾けてくれる人はだれもいませんでした。それに正直なところ、わたしの気分はそれほど良くありませんでした。意気消沈せずにはいられません。来る日も来る日も、寒い通りを行ったり来たりして教える人を探しましたが、骨まで凍りつきそうなほど足は冷え切っていました。がっかりするような状況でしたが、あきらめるわけにはいきません。クリスマスがそこまで来ていたので、人々にクリスマスの精神を感じてほしかったのです。でも一体どうやって？

ある晩、アパートに帰るため列車に乗っていたところ、小人数の演奏家たちが車両に乗り込んで来ました。彼らは見事な演奏を聴かせてくれました。ところが驚いたことに、だれも感動する様子がありません。一人か二人ぐらいはポケットの小銭を上げたようですが、ほかの人はただ、いてつく窓を眺めているばかりでした。わたしは演奏家たちが気の毒に思えて、硬貨を2、3枚渡しました。

程なく列車がアパートに近い駅に到着すると、わたしたちは走って帰りました。アパートに帰ってドアを閉めた途端、電話が鳴りました。受話器を上げると、ディストリクトリーダー（訳注——伝道地区を管理する宣教師の指導者）の声でした。

その日は宣教師としてクリスマスの季節を祝うアイデアを出すことになっていました。すっかり忘れていたのですが、わたしはそのことを気づかれたくありませんでした。その場で必死に考えてあの演奏家たちのことを思い出し、ディストリクトの宣教師が列車でクリスマスの賛美歌を歌うことを提案しました。わたしがバイオリンで伴奏できることも伝えました。驚いたことに、というよりはむしろ困ったことに、ディストリクトリーダーはこのアイデアが気に入ってしまいました。わたしたちは演奏する日を決めました。「どうしてあんなことを言ったのだろう。」こうつぶやいた訳は、ディストリクト内の宣教師のうち3人が音痴だったことを思い出したからです。

その日がやって来ました。宣教師たちは駅のプラットフォームに集合しています。日没後かなり時間が経過していて、寒さはひどいものでした。わたしの足はすでにかじかんでいました。最後の練習を5分ほどしていると、列車がゆっくりとプラットフォームに入って来ました。ドアが開くと、わたしたちは冷たい風と雪をしのげる列車に喜び勇んで入りました。ケースからバイオリンを取り出しながら、わたしは神が聞く人の心に触れてくださるようにと、黙って祈りました。

わたしたちが列車に乗り込んで、ほとんどの乗客は気にする様子もありません。わたしの指はまだ温まっていませんでした。そのため、弾き始めたバイオリンはとても単純ながら、鋭く貫くような音を出しました。突然、車内の雰囲気が変わりました。まるで触ることができるほど、空気が張り詰めました。乗客たちは息を凝らしているようでした。そこへほかの宣教師たちが加わって、「聖し、この夜」を歌い始めました。

聖し、この夜
星は光り



救いの御子は
み母の胸に
眠りたもう
夢やすく¹

わたしが伴奏し、ほかの宣教師たちが歌っている間、列車の中で言葉を発する人はだれ一人いませんでした。賛美歌の演奏を終えると、わたしは人々の顔を見渡しました。だれもがわたしたちをじっと見詰めています。涙で頬をぬらしている女性も何人かいました。少しの間、静寂が続きました。だれもその雰囲気壊したくなかったのです。ついに、後方の座席にいた一人の男性が立ち上がって叫びました。「あの人たちは聖者だ、間違いなく聖者だ!」皆が拍手し始めました。

通路を歩いて行くと、多くの人々がわたしたちにお金を渡そうとしました。受け取らないことを伝えると、彼らはなおさら驚きました。だれかが小声で「こんなことあるはずがない」と言うのが聞こえました。ある男性などは1,000ルーブルを渡そうとしました。わたしたちが断ると彼はとても驚いたようでした。お金を受け取る代わりにパス・アロング・カードを勧めると、彼は喜んで受け取りました。間もなくほかの乗客たちもパス・アロング・カードを欲しいと言い出しました。教会とわたしたち宣教師のことについても尋ねてくれました。見回したところ、どこもかしこも笑顔と心のこもったあいさつであ

ふれているようでした。車両の端まで行ったところで、わたしたちは乗客に「メリークリスマス」と声をかけ、この新たな友人たちに手を振って別れを告げました。

車両のドアを出たところで、わたしたちは信じられないという表情で互いを見ました。「一体、何が起きたんだろう!」わたしたちは口々にそう言いました。次の列車が来ると、さっきの倍の勢いで中に入りました。最初、乗客たちはわたしたちのことを気に留めてはいませんでした。でも、賛美歌の演奏を終えたときの彼らの反応は、先ほどと同じ奇跡的なものでした。その晩はずっと電車を乗り換えながら演奏をしましたが、どの電車でも同じ経験をしました。伝道に出て以来一度も、このように受け入れられ、人々の愛を感じたことはありませんでした。

その晩、家路をたどりながら、音楽と救い主についてのメッセージ、そしてクリスマスの精神が織り成す奇跡を見たことを実感しました。たとえ人生最悪だと思える時期であっても、主がいてくださることが慰めとなります。御霊の力によって、人がどれほど劇的に変わるものかをこの目で見たことは、最高の祝福でした。わたしはこの夜のことをいつも忘れず、心に刻んで大切にします。御霊がずっとそのような奇跡をもたらしてくれますように。■

注

1. 「聖し、この夜」『賛美歌』118番

キリストの降誕 の預言

昔の人たちが主をお迎えするためにどのような準備をしたかを思い出しながら、今からクリスマスの備えをしましょう。

聖書やモルモン書に登場する多くの預言者は、実際に主がおおいでになる何百年も前から、イエス・キリストが生まれ、教え導かれることを預言していました。クリスマスまでの12日間、このアドベントカレンダーを通して、救い主の降誕や生涯についての聖句、そしてもっとキリストのような人になるためにできる活動を紹介します。日付の下にある聖句を読みましょう。その下には関連する活動があります。興味のあるものに挑戦してみてください。両親の許可を得たうえで、これらのアイデアを家庭の夕べで行ってもよいでしょう。

トーマス・S・モンソン大管長はこう話しました。「これからしばらくの間、仰々しい文句が並ぶクリスマスプレゼントのカタログのことは忘れましょう。お母さんへの花束や、お父さんへのすてきなネクタイ、かわいらしい人形や、汽笛の鳴るおもちゃの汽車、ずっと待っていた自転車、本やビデオのことも、考えないようにしましょう。その代わりに、神から与えられた、朽ちることのない贈り物に思いを向けましょう。」¹ ■

注

1. トーマス・S・モンソン「大切な贈り物」『リアホナ』2006年12月号、4。Ensign 2006年12月号、6

クリスマスの季節が終わっても、
学んだことを
思いや心に留めておきましょう。
そして、人に仕えることによって
一年中クリスマスをお祝いしましょう。



12月13日

旧約聖書の預言者イザヤは、一人の純真な女性が天の御父の御子を産むと預言しました。この聖句は、主がお生まれになる700年以上前に書かれました。

「見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルととなえられる。」(イザヤ7:14;2ニーファイ17:14も参照)

「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』ととなえられる。」(イザヤ9:6;2ニーファイ19:6も参照)

よく祈り、友達、家族、ワードや支部の会員の中から一人を選びます。その人に気づかれないように、簡単な贈り物をそっと残しましょう。ちょっとしたお菓子、聖句を読んで感じたことを書いたもの、あるいはクリスマスカードなどでもよいでしょう。

12月14日

ニーファイは示現の中で、おとめマリヤと赤ん坊のイエスを見ました。

「すると天使は言った。『見よ、あなたが見ているおとめは、肉に関して神の御子の母である。』

そしてわたしは、そのおとめが御霊に連れて行かれるのを見た。そのおとめが御霊に連れて行かれてからしばらくして、天使がわたしに『見なさい』と言った。

それで眺めると、腕に幼子を抱いたおとめが見えた。

すると天使がわたしに言った。『神の小羊、まことに永遠の父なる神の御子を見なさい。』(1ニーファイ11:18-21)

自分が欲しいものではなく、人に贈りたいもののクリスマスリストを作りましょう。

12月15日

預言者はキリストの地上での使命について証しました。これは紀元前150年ごろの預言者アビナダイの言葉です。

「このように、肉体が御霊に従い、あるいは御子が御父に一つの神として従われた後、御子は誘惑を受けてもその誘惑に負けず、かえって御自分の民からあざけられ、鞭打たれ、追い出され、拒まれるままになさる。

そして、このようなことの後、また人の子らの中で多くの大きな奇跡が行われた後、……

……この御方は連れて行かれて、十字架につけられ、殺され、その肉体は死に従うが、御子の御心は御父の御心にもみ込まれてしまう。」(モーサヤ15:5-7)

クリスマスのお菓子や食事を作って、ワードや支部の家族に贈りましょう。ほかの人に何かを贈ることは、ワードの一致や友情を深めるうえで役立ちます。



12月16日

アルマは紀元前83年ごろ、ギデオンに住む人々にこう預言しました。

「神の御子は地の面に来られる……。

そして見よ、神の御子は……マリヤからお生まれになる。マリヤは聖霊の力により覆われて身ごもり、男の子、まことに神の御子をもうけるおとめであって、尊い、選ばれた器である。

そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。

また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、……彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ7:9-12)

助けを必要としている人に奉仕という贈り物をしましょう。自分がどのような奉仕の贈り物をする事ができるか、家族に考えてもらってもよいでしょう。

12月17日

イエス・キリストは神の子供たち一人一人を愛しておられ、一人としてお忘れになることはありません。エゼキエルは、主が羊飼いとなって失われた羊をお集めになると預言しました。

「主なる神はこう言われる、見よ、わたしは、わたしみずからわが羊を尋ねて、これを捜し出す。

牧者がその羊の散り去った時、その羊の群れを捜し出すように、わたしはわが羊を捜し出し、……

すべての所からこれを救う。わたしは彼らをもろもろの民の中から導き出し、……彼らの国に携え入れ、イスラエルの山の上……でこれを養う。」(エゼキエル34:11-13)

弟や妹、年下の親戚や友達と一緒に過ごしましょう。ルカによる福音書第2章にあるクリスマスのお話を読んであげましょう。

12月18日

イエス・キリストは完全な御方でしたが、すべての義にかなったことを成就するためにバプテスマをお受けになる必要がありました。ニーファイが記録した、リーハイの預言を読んでみましょう。

「そして、父が言うには、この預言者〔バプテスマのヨハネ〕はヨルダンのかなたベテアバラでバプテスマを施す。またバプテスマは水で施し、まことにメシヤに水でバプテスマを施す。

そして彼は、メシヤに水でバプテスマを施してから、世の罪を取り除く神の小羊にバプテスマを施したことを認め、その証をする。」(1ニーファイ10:9-10)

ワードや近所で病気の人、お年寄り、夫を亡くした人と一緒に過ごし、時間という贈り物をしましょう。その人の思い出のクリスマスについて聞いてみましょう。



12月19日

レーマン人サムエルは、救い主がお生まれになるしるしについて預言しました。

「見よ、わたしはあなたがたにしるしを与える。もう五年たつと、見よ、神の御子^{みま}がその御名^{あがな}を信じるすべての人を贖うために来られる。

……天に大いなる光があるために、神の御子が来られる前の夜は暗闇がなく、人にはまるで昼のように思われる。……

また見よ、あなたがたが一度も見たことのないような一つの新しい星が現れる。これもあなたがたへのしるしである。』(ヒラマン14:2-3, 5)

自分にとってクリスマスにはどのような意味があるか、また家族にはどのようなクリスマスの伝統があるかを日記に書きましょう。

12月20日

キリストがお生まれになる前に、天使ガブリエルがマリヤを訪れました。

「六か月目に、御使ガブリエル^{みつがい}が、神からつかわされて、ナザレというガリラヤの町の

一処女のもとにきた。この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいなづけになっていて、名をマリヤといった。

御使がマリヤのところに来て言った、『恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます。……

あなたは神から恵みをいただいているのです。

見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。』(ルカ1:26-28, 30-31)

家族や友達を集めて近所でキャロリングをするか、自分の家でクリスマスの歌を歌いましょう。

12月21日

ヒラマンの孫のニーファイは主の降誕を忠実に待っていました。しかし、信仰心のない人たちはニーファイにこう言いました。「時は過ぎ去り、サムエルの言葉は成就していない。だから、あなたがたがこのことを喜び、信じたのは、むなしいことだった。」(3ニーファイ1:6)

そこでニーファイは、「出て行って地に伏し、自分の民のために、……熱烈に神に叫び求め」ました(11節)。

主はニーファイに言われました。「頭を上げて、元気を出しなさい。見よ、時は近い。今夜、しるしが示され、明日、わたしは世に来る。そしてわたしは、聖なる預言者たちの口を通して語ってきたすべてのことを成就することを、世の人々に示す。」(13節)

祈るとき、天の御父に、御子という贈り物を下さったことを感謝しましょう。



12月22日

ついに、キリストがお生まれになるという預言が成就しました。

「さて、ニーファイに下された御言葉は告げられたとおりに成就し……た。

そして、預言者たちの言葉を信じなかった多くの者は地に倒れ、まるで死んだようになった。……かつて告げられたしるしがすでに現れたからである。……

そして、その夜は一晩中少しも暗くならず、まるで真昼のように明るかった。……

そして、一つの新しい星もその言葉のとおり^に現れた。」(3ニーファイ1：15-16, 19, 21)

イエス・キリストはわたしたちに最も偉大な贈り物を下さいました。それは御自身の命です。親に手紙を書いて感謝の気持ちを表しましょう。手紙には、今までしてくれた良いことへの感謝の言葉を書きましょう。

12月23日

キリストが地上に来られた夜、ベツレヘムにいた、義にかなった羊飼いたちに天使が現れて、キリストがお生まれになったことを告げました。

「〔マリヤは〕初子^{ういご}を産み、布にくるんで、飼葉^{かいば}おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地^{ひつじかい}がなかったからである。

さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。

すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。

御使は言った、『恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主^{すくいぬし}がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。』(ルカ2：7-11)

もっと幸せで親切な人になる決意をしましょう。

12月24日

クリスチャンであるわたしたちは毎日、そして一年中、信仰と善い行いを通してイエス・キリストの証人となります。預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンはこのように証しています。

「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる。』(教義と聖約76：22-24)

断食証会など、次の適切な機会に救い主について証しましょう。■



あなたがたの行いを 奉献しなさい



十二使徒定員会
ニール・A・マックスウェル長老(1926-2004年)

ニール・A・マックスウェルは、十二使徒定員会補助として2年間、七十人定員会会長会の一員として5年間奉仕した後、1981年10月3日に十二使徒定員会会員として支持されました。白血病を患い、8年にわたる闘病の末、2004年7月21日にソルトレーク・シティで死去しました。奉献に関するマックスウェル長老のこの不朽の説教は、2002年4月の総大会で話されたものです。

奉献について
思いを巡らし、
追求していると、
無理からぬことです、
求められるかもしれない
事柄について考え、
わたしたちの心は
恐れで震えます。
しかし、主は
次のような
慰めの言葉を
授けてくださっています。
「わたしの恵み〔は〕
あなたがたに対して
十分である。」

この話は、不完全ながらも信仰の家族とともに努力を重ねている人々に向けてのものであります。そしていつもと同じように、自分に言い聞かせるつもりでお話します。

神から何かを奉献するように命じられた場合、わたしたちは物質的な所有物をささげることだと考えがちです。しかし究極的には、奉献とは自分を神にささげることにはかならないのです。キリストは「心や精神、思い」という言葉を鍵として第一の戒めをまとめておられますが、これは、気が向いたときだけでなく常に行う必要があります(マタイ 22:37 参照)。これを守ればその結果として、わたしたちの行いは完全に奉献され、自分自身に永遠の幸いをもたらすものとなるでしょう(2ニーファイ 32:9 参照)。

そのような完全性を得るには、感情や思考、言葉や行いを一点に向ける必要があります。そこからそれではなりません。「なぜならば、仕えたこともなく、見も知らぬ他人で、心の思いと志を異にしている主人を、どのようにして人は知ることができようか」とあるからです(モーサヤ 5:13)。

抽象的すぎる、困難すぎると感じられるため、

多くの人が奉献という概念に関心を払わずにいます。しかし誠実な教会員は、前進と引き延ばしが混在する状態に対して、神から与えられる不満足感を経験しています。それゆえ、各自が固有の困難を経験するこの旅において、愛ある勧告が述べられ、進むべき道が示され、旅を続ける励ましと慰めが与えられるのです。

完全に従順になる

霊的服従は瞬時に身に付くものではありません。改善の積み重ねと、踏み石を一步一步進むことが求められます。もともと踏み石は一步一步ずつ進むものとして造られたものです。「子供が父に従うように、……喜んで従〔う〕」とき、やがてわたしたちは自分の意志を「御父の御心^{みこころ}にのみ込まれ」させることができます(モーサヤ 15:7; 3:19)。さもなければ、いくら努力していても、



二十世紀のアート・リバイバル運動の中心人物として知られる、オーストリアの画家、グスタフ・クリムトの作品「キリストとマリヤ」。

救い主は しよくざい 贖罪の くもん 苦悶と苦悶に

直面し、
その苦い杯を飲まずに
身を引くことができれば
そうしたいと
思[われた]とき、
驚くべき服従心を
示されました。

常に打ち寄せるこの世の波によって、多少なりとも注意がそれてしまうでしょう。

経済に関する奉獻を例にして話すことにしましょう。アナニヤとサツピラは資産を売ったときに「その代金[の一部]をごまかし」ました(使徒5:1-11参照)。あまりにも多くの人がある「一部」に固執し、執着心さえも自分の財産であるかのように扱います。そのため、これまで何をささげたかにかかわらず、最後の一部をささげるのが最も難しいのです。確かに、たとえ少しでも執着心を捨てることは称賛に値します。しかしそれは「わたしはもう会社で寄付して来ました(免除してください)」と言いつけるのとよく似ています

(ヤコブの手紙1:7-8
参照)。(訳注――

アメリカでは寄付を募る人が会社をよく訪問する。)

例えば、自分に与えられている才能を自分のものだと誤解する人がいるかもしれません。神よりもそのような才能に執着し続けているのは、第一の戒めに自らをささげずに、しり込みしているようなものです。神は「いかなる瞬間にも」わたしたちに「息を与え」てくださっているのですから、注意をそらさせるものを呼吸しすぎるべきではありません(モーサヤ2:21)。

時間と金銭は惜しみなく神にささげても、内なる自分をすべてささげないと、つまずきの石が現れます。それは、まだ自分を完全に主のものにしていけない証拠です。

中には、特別な務めが終わることを受け入れられない人もいます。バプテスマのヨハネはこれに対して模範になっています。イエスについて行く人の群れが大きくなることについてヨハネはこう述べています。「彼は必ず栄え、わたしは衰える。」(ヨハネ3:30) 今受けている責任だけを神の愛の尺度だと誤って解釈すると、ますます手放したくなくなるだけです。兄弟姉妹、わたしたち一人一人の価値は「大いなるもの」としてすでに神によって定められています。株式市場のように上がり下がりすることはないのです。

ほかにもまだ足を踏み出していない踏み石があります。かの義にかなった裕福な青年のように、わたしたちが自分に足りないものに立ち向かおうとしないからそれらの踏み石に足を踏み出せないのです(マルコ10:21参照)。その結果、残った利己心が露呈します。

こうした躊躇は非常に様々な形を取って現れます。例えば、月の栄えの王国には「高潔な」人がいるでしょう。彼らが偽証をする人ではなかったことは明らかでしょう。それでも彼らは「イエスの証に雄々しくない者」だったのです(教義と聖約76:75, 79)。イエスについて雄々しく証する最善の方法は、着実に主に似た者となっていくことです。そして、自らを奉獻し、ささげることによってキリストのような属性が刻み込まれていくのです(3ニーファイ27:27参照)。

わたしのほかに、なにものをも神としてはらない

これまで述べてきたチャレンジにこたえるときに、幸いにもわたしたちを助けてくれるのが



霊的服従です。霊的服従は、ある時にはこの世の命を含む様々なものを「手放す」ように、ある時には「しっかりつかまる」ように、またある時には、次の踏み石の上に足を置けるように助けてくれます(1ニーフイ8:30参照)。

しかし、バランスを欠くと、数メートル先に進むことすら非常に怖くなります。古代イスラエルの民が強大なパロの軍勢から逃れようとしたとき神がどのようにお助けになったかを知っていたにもかかわらず、近視眼的なレーマンとレムエルは、一介の地方者であるラバンに相対するときに神の助けが得られるとの信仰がありませんでした。

また、仕事やその他の上下関係で上の人を喜ばせることばかりに気を取られるならば、それていくことになります。真の神ではなく「他の神々」を喜ばせることもまた、第一の戒めを破ることになります(出エジプト20:3参照)。

わたしたちは時々自分の中にある風変わりな性格を弁護することすらあります。はみ出した部分をあたかも自分の個性だと考えるのです。預言者ジョセフ・スミスが証しているように、主の弟子になるということは、ある意味で「体をぶつけ合う激しいスポーツ」です。

「わたしは……ごつごつした大きな石に似ています。わたしが唯一磨かれるときといえば、ほかのものがはなはだしい勢いでぶつかってきて、角を削り取られるときです。このようにして、わたしは、全能者の矢筒の中の、滑らかで研ぎ澄まされた矢となるのです。」¹

ひざがかがんでも心がかがむまでには時間がかかることが多いので、ある「一部分」を神にささげようとしながために、人類最高の知識人たちが神の業に参加できないでいます。「思ってもみない」ことを学んだモーセのように柔和になる方がはるかによいのです(モーセ1:10)。しかし兄弟姉妹、悲しいことに選択の自由や個性が微妙に交錯する中で、なかなか一歩を踏み出せないことが多いのです。心を主に従わせることは勝利にほかなりません。なぜなら、そうすることによって神により鍛えられ、より高い神の道へと導かれるからです(イザヤ55:9参照)。

皮肉にも、善いことを行っているにもかかわらず、一生懸命になりすぎて神への献身がないがしろにされることがあります。例えば、わたしたちの中にはスポーツや身体強化に夢中になっている人がいます。自然を敬っているにもかかわらず、自然をお造りになった神を無視している人がいます。良い音楽にのめり込んでいる人、同様に価値ある職業を無上のものとしている人もいます。そのような状況の中でしばしば顧みられないのが「もっと重要な」ことです(マタイ23:23。1コリント2:16も参照)。わたしが実行できる最も良い事柄へとわたしたちを導いてくださるのは、至高者御一方だけなのです。

イエスは強調を込めて、二つの大いなる戒めにほかのすべてのものがかかっていると宣言されました。逆ではありませ

ん(マタイ22:40参照)。他の良いものを懸命に追求することで、この第一の戒めをないがしろにはなりません。わたしたちは他の神を礼拝しないからです。

神の御手を認める

ですから、善良な努力の結果を楽しむ前に、まずは神の御手を認めようではありませんか。そうでないと次のような合理化が頭をもたげます。「自分の力と自分の手の働きで、わたしはこの富を得た。」(申命8:17)あるいは自ら「誇〔って〕」しまします。それは、ちょうど、古代イスラエルの民(故意に人数を減らしたギデオンの軍隊は例外)が「わたしは自身の手で自分を救ったのだ」と大言壮語したのと同じです(士師7:2)。自分自身の「手」を自慢すると、すべてのことの中に神の御手を認めることの難しさが2倍になります(アルマ14:11;教義と聖約59:21参照)。

歴史上最も偉大な人物の一人であるモーセは、メリバと呼ばれる池で、水を求めて騒ぐ民に辟易していました。ほんの一瞬、モーセは「軽率なこと」を口にします。「われわれがあなたがたのために……水を出さなければならないのであろうか。」(詩篇106:33;民数20:10。申命4:21も参照)この代名詞の問題(訳注——モーセは「主が」と言うべきところを「われわれが」と言ってしまった)から、主は偉大な人物モーセを薫育し、さらに大いなる者とされました。わたしたちもモーセのように柔和になることができます(民数12:3参照)。

イエスは決して、決して、決して焦点を失われませんでした。各地でたくさんの善い業を行われたにもかかわらず、贖罪しよくざいが待ち受けていることをいつも意識しておられたイエスは、先を見通してこう願ひ求められます。「父よ、この時からわたしをお救いください。しかし、わたしはこのために、この時に至ったのです。」(ヨハネ12:27。5:30;6:38も参照)

皆さんやわたしが愛や忍耐、柔和さをはぐんでいくときに、神と人に対して自分をもっとささげなければなりません。第一、わたしたちほど適切な人生行路に身を置いている人はいないのです。

そうです、主の踏み石はまったく踏み込みたくない新しい領域へわたしたちを連れて行きます。したがって、踏み石を上手に進む人は、ほかの人々を強力で啓発してくれる人なのです。わたしたちは通常、自分が心の中で称賛している人の言うことを、より注意深く聞きます。空腹の放蕩息子は家の食事を思い出しましたが、同時にほかの記憶にも駆り立てられ、こう言いました。「立って、父のところへ帰〔ろう。〕」(ルカ15:18)

奉獻を通して、神のものを神にお返しする

完全な服従を追求する際、ほんとうに何が何でも神にささげなければならないのは、わたしたちの意志だけなのです。通常のささげ物をささげるときも、ささげるという行為を通し

て得られた派生物をささげるときも、「送り主の主に返送」というスタンプが押してあって当然なのです。主がこの返送されたささげ物の一つ受け取られるときでさえ、完全に忠実な人々は「〔神が〕持っておられるすべて」を受けることでしよう(教義と聖約84:38)。何という驚くべき交換率でしょうか。

その一方で、次の事実も変わらずあるのです。——神はわたしたちに命、選択の自由、才能、機会を与えてくださっている。神はわたしたちに財産を与えてくださっている。神はわたしたちに現世で過ごす時間と、そのために必要な息を与えてくださっている(教義と聖約64:32参照)。そのような見方に従えば、バランスに関する重大な過ちを犯すことはありません。こうした過ちには、ダブルカルテットを聴いてタバナクル合唱団と間違うのに比べて、はるかに深刻なものもあります。

〔ゴードン・B〕ヒンクレー大管長が、わたしたちは聖約の民であると強調し、聖餐や什分の一や神殿の聖約を強調し、犠牲は「贖罪の真髄そのもの」と述べたのも、まったく当然のことです。²

イエスの従順の模範

救い主は贖罪の苦悩と苦悶に直面し、その苦い杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思〔われた〕^{くもん}とき、驚くべき服従心を示されました(教義と聖約19:18)。わたしたちが遭遇する試練は小さいものですが、わたしたちは何とかしてその試練が取りのけられるように願うのです。

考えてみてください。たとえイエスがもっと多くの奇跡を行っておられたとしても、ゲツセマネとカルバリにおける人知を超えた奇跡を行っておられなかったら、主の業はどうなっていたでしょうか。イエスが行ったほかの奇跡によって、ある人は命が延ばされ、ある人は苦痛が軽減されました。しかしこれらの奇跡を、全人類の復活という最も偉大な奇跡と比べることは可能でしょうか(1コリント15:22参照)。

パンと魚を何倍にもすることによって、群衆の空腹は満たされました。でも、食べた群衆はまたすぐに空腹になります。しかし、命のパンを食べた人は二度と飢えることはありません(ヨハネ6:51, 58参照)。

奉獻について思いを巡らし、追求していると、無理からぬことですが、求められるかもしれない事柄について考え、わ

たしたちの心は恐れで震えます。しかし、主は次のような慰めの言葉を授けてくださっています。「わたしの恵み〔は〕あなたがたに対して十分であ〔る。〕」(教義と聖約17:8) わたしたちは心から主を信じているのでしょうか。主はまた、弱さを強さに変えると約束してくださいました(エテル12:27参照)。わたしたちはほんとうに進んでその変化に身をゆだね

ているのでしょうか。完全を求めるのであれば、主に対してもすべてをささげる必要があります。

わたしたちの意志がますます御父の御心にもみ込まれてしまうということは、実はわたしたち自身が高められ、広げられ、「〔神が〕持っておられるすべて」を受ける力が増すことなのです(教義と聖約84:38)。そもそも、わたしたちの意志がさらに主の御心と似たものにならずして、主から「すべて」を託されることが可能でしょうか。また、すべてをささげていない者が主の「すべて」の意味を正しく理解できるのでしょうか。

率直に言って、何であってもすべてをささげないとき、わたしたちは自らの可能性を裏切ることになります。したがって、「主よ、まさか、わたしではないでしょう」と尋ねる必要はないのです(マタイ26:22)。それよりも、わたしたち個人のつまずきの石について、「主よ、これですか」と尋ねましょう。わたしたちはずっと前からもう答えを知っていて、必要なのは主の御言葉よりも自分自身の決意なのかもしれません。

神の寛大な計画における最高の幸福は、進んで最善を尽くし、神の荘厳な王国への旅路を進むために必要な代価を進んで支払う人々のために、最後まで取っておかれるのです。兄弟姉妹の皆さん、「来てください。〔この〕旅をともに続けましょう。」³ 「伸べられた腕」(教義と聖約103:17; 136:22参照)をお持ちの主、イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。■

**パンと魚を何倍にも
することによって、
群衆の空腹は
満たされました。
でも、食べた群衆は
またすぐに
空腹になります。
しかし、
命のパンを食べた人は
二度と飢えることが
ありません。**



小見出しは追加。英文のつづり、表記法、引用表記法は他の記事と統一させるために変更しています。

注

1. ジェームズ・R・クラーク編、*Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*、全6巻(1965-1975年)、第1巻、185で引用。「リアホナ」1991年11月号、30参照
2. *Teachings of Gordon B. Hinckley*(1997年)、147
3. 「来たれ、旅を共に続けん」『賛美歌』135番参照

イエス・キリストは世の光であり 命であり希望であられる



訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や言葉をお教えください。その教義について証してください。あなたが教える人々に、感じたことや学んだことを分かち合うように勧めてください。

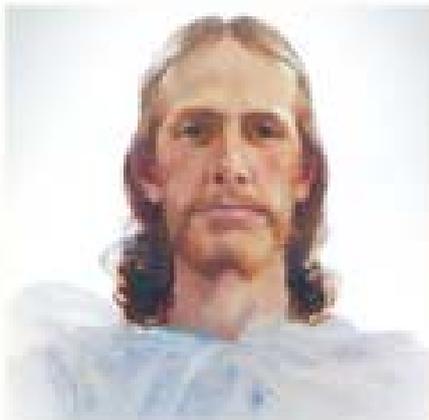
イエス・キリストはどのように、世の光、命であられるのでしょうか。

1ニーファイ17:13——「わたしはまた、荒れ野でああなたがたの光となろう。……したがって、あなたがたはわたしの命令を守るかぎり、約束の地に導かれるであろう。そして、あなたがたを導いているのがわたしであることを知るであろう。」

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス長老——「イエス・キリスト〔は〕世の光であり命であられ……ます。万物は主によって造られました。御父の指示と計画に従って、創造主であるイエス・キリストは万物の光と命の源となりました。……」

イエス・キリストは世の光です。なぜならイエスは、『広大な空間を満たすために神の前から発している』光の源だからです(教義と聖約88:12)。イエス・キリストの光は、『世に来るすべての人を照らすまことの光』なのです(教義と聖約93:2)。主の模範と教えは、わたしたちが天の御父のもとに帰るための道を示してくれています。……

イエス・キリストは世の命です。なぜなら聖文に書かれているように『死から人々を解放する、偉大な永遠の計画』



にあつて、主が特別な役割を果たしておられるからです(2ニーファイ11:5)。主の復活と贖いにより、わたしたちは肉体の死と霊の死の両方から救われるのです。」「光と命』『聖徒の道』1997年12月号、42-43。New Era、1996年12月号、6参照)

イエス・キリストに希望を見いだすにはどうすればよいのでしょうか。

大管長会第二顧問 ディーター・F・ワークトドルフ管長——「イエス・キリストの福音には神聖な力があり、時には耐えられないような重荷や弱さと思われるような地点から、はるかな高みに皆さんを引き上げてくれます。主は、皆さんの状況や問題についてよく御存じです。主はパウロに、そしてわたしたちすべてに向けてこう言われました。『わたしの恵みはあなたに対して十分である。』これに対して、パウロと同じようにわたしたちは答えます。『わたしの力は弱いところに完全にあらわれる。』それだから、キリストの力がわたしに宿

るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。』(2コリント12:9)」「喜んでよい理由はないだろうか』『リアホナ』および Ensign、2007年11月号、19)

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック——「モルモンは『あなたがたは何を望めばよいのであろうか』と問いかけています。モルモンの答えには3つの偉大な希望が含まれています。『あなたがたは、キリストの贖罪とキリストの復活の力によって永遠の命にのみがえることを望まなければならない。』(モロナイ7:41)

皆さんはバプテスマを受けたとき、キリストの贖いという希望を胸に抱くようになりました。これは……偉大な希望の最初の一つです。ふさわしい状態で聖餐を受ける度に、皆さんは初心に戻り、……悔い改めて生活を変えるならば、皆さんは救い主に対してさらに大きな希望と信仰を抱けるようになります。……

二つ目の偉大な希望は復活です。救い主イエス・キリストを通して、皆さんは全員復活すると約束されています。……

贖いと復活に対する希望に加えて、皆さんには3つ目の偉大な希望、つまり永遠の命という希望があります。……皆さんには救い主がおられるので、創造し、奉仕し、学ぶために生きる幸せな永遠の命についても信じています。皆さんはすでに細くて狭い道を歩んでいます。そして、明るい希望があります。……皆さんはただその道にとどまり、……明るい希望を抱いて前進すればよいのです。」「(「明るき希望あり」『リアホナ』および Ensign、2003年5月号、103-105参照)■

「祈りの度に同じことを言ってしまいます。
単なる繰り返しではなく、
祈りをもっと有意義なものにするには
どうしたらよいでしょうか。」

聖文には、くどくどと祈ることは問題であると
はっきり記されています(マタイ6:7参照)。大
切な事柄を祈りの中で繰り返す必要のあるこ
とも、時にはあるでしょう。しかし、何も考えずに言葉を
繰り返しているのであれば、天の御父とほんとうに話し
ていることにはなりません。意味のない繰り返しを避ける
ために、「誠意」をもって(2ニーファイ31:13;モロナイ
7:9;10:4参照)、つまり真心と、信仰をもって行動した
いという気持ちをもって祈れるようになります。

第三ニーファイで、救い主の弟子たちは「絶え間なく」
祈りました。それでも、「彼らは言葉数を多くしたのは」
ありませんでした。「祈るべき事柄が彼らに示され……
たから」です。(3ニーファイ19:24) 聖霊はわたしたち
の祈りを導き、より意義深いものにするのがおできに
なります(ローマ8:26参照)。慌ただしいときを避け、
静かな場所で祈る時間を取ることも助けになります。

最後に、どんなことについて祈ることができるか考え
てみましょう。様々なこと、数多のことについて祈ること
ができます。あなたは日々たくさんの祝福を受けてい
ます。また、多くの場面で天の助けを必要としています。
受けている祝福について天の御父に感謝し、必要と
している事柄について祈りましょう。救しを得るため、
試練の中で助けを見いだすため、証を強めるため、
そして誘惑から守られるように祈ることができます。



無私の祈り

時々、わたしたちは祈りながら、自分のこと
や自分の欲しいもののことばかり考えて、利己
的になっていると思います。人のことや、その人
たちが必要としている事柄についても考えてみ
ましょう。祝福を一つ一つ数え上げ、天の御父
に感謝しましょう。御父に望みや愚痴を聞いてもらうだけが祈
りではありません。御父に耳を傾けることも祈りなのです。自
分の望みだけを早口で伝え、すぐに床に就いてしまっは、どの
ようにして啓示を受けることができるのでしょうか。天の御父がわ
たしたちに何をしよう望んでおられるか尋ねましょう。そうす
れば、さらに善い人になれるでしょう。

アメリカ合衆国、アイダホ州、レベッカ・W、16歳



聖霊に導いていただく

生活で何に対して最も感謝し、またどんな助けを
最も必要としているか、深く考える時間を取りましょ
う。御霊はあなたを導き、答えや助言を与えてくれ
ます。そうした答えや助言は、アイデア、思い、促しと
いった形でやって来ます。将来、振り返ることがで
きるよう、そうした思いやアイデアを日記に書いてもいいでしょう。

テキサス州ヒューストン伝道部、セボ長老、21歳



一日を振り返る

わたしは夜祈るとき、聖文で読んだことについて考えます。正しくできたことと、もっと改善

できることを思い出すようにしています。その日大変だったことについて、天の御父に助けを祈り求めることができます。御父の勧告をいつも覚え、その勧告に従う力を受けられるように祈っています。たとえ毎日が同じことの繰り返しでも、まったく同じ日というのはありません。いつもと違うことは必ず起こるものです。毎日が違った日なのです。一日を振り返りながら、新しいことに感謝し、新しいことをお願いすることができるでしょう。

ブラジル、バルマス、ケティア・F、20歳



声に出して祈る

独りになり、声に出して祈れる時間と場所を探しましょう。声に出して祈るとき、祈りははるかに身近で意義深いものに感じられます。意味のない繰り返しを避けやすくなり、注意力が散漫になるのをより容易に防ぐことができます。そのような祈りはまさに、天の御父との会話です。

コロラド州コロラドスプリングス伝道部、マラ長老、20歳

コロラド州コロラドスプリングス伝道部、マラ長老、20歳

祈り、耳を傾ける

主を信頼し、主との関係をより良くする必要があると感じたら、自分は何を望んでいるのか考え、ひざまずいて祈りましょう。天の御父を心に思い浮かべ、父親と話すときのように語りかけましょう。御父は確かにわたしたちの父親なのですから。感じていることをすべて話し、心の通った、誠実な会話をしましょう。御父を信頼し、感謝を述べ、赦しを求めましょう。御父との

交わりを喜び、御父への愛を示し、そして祈りの答に注意深く耳を傾けましょう。

メキシコ、メキシコシティ、ラウル・A、20歳



具体的に祈る

祈る前に、たとえ数分であっても準備をしましょう。思いを整理しながら、心の底からお願

いしたいことは何かをまとめておくことで、御父に話しかける言葉により集中することができます。家族や親族といった人たちのことを考えてください。あなたの祈りを必要としているかもしれません。助けや導き、守りを必要としている人はたくさんいます。

具体的な祝福に絞って考え、詳しく祈ることによって、「良い日になるよう祝福してください」といういつもの祈りを、「正しい決断をして、模範になれるよう導いてください」と変えることができます。このような祈りこそ大切なのです。キリストのような祈り、すなわち、本来あるべき祈りだからです。

アメリカ合衆国、メリーランド州、ハンナ・T、14歳



心から祈る

「祈るときには、天のお父様とほんとうに話しましょう。ほとんど何も考えずに、同じ言葉を繰り返すという習慣は簡単に身に付いてしまいます。皆、文字どおり、神の霊の息子、娘であることを思い出せば、祈りを通して御父に近づくのは難しいことではないでしょう。神はわたしたちを知り、愛し、わたしたちの幸福を望んでおられます。心から、意味のある祈りをささげましょう。感謝をささげ、必要なものを求めてください。御父の答えを求めて耳を傾けましょう。そうすれば答えが与えられたときに気づくことができます。そうするうちに、わたしたちは強められ、祝福を受けるのです。」

トーマス・S・モンソン大管長「堅固な土台」『リアホナ』および Ensign, 2006年11月号, 67

質問

「両親は教会員ではありません。わたしは親に教会について話すことに恐れを感じています。彼らの気分を書さず福音を伝えるにはどうしたらよいでしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください。2009年1月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——

Liahona, Questions & Answers 1/09
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メールアドレス——
liahona@ldschurch.org

電子メールまたは手紙には、以下の情報と署名入りの許可文を必ず明記/同封してください。

氏名 _____
生年月日 _____
ワード(または支部) _____
ステーク(または地方部) _____
意見と写真の掲載を許可します。
署名 _____
親の署名(18歳未満の場合) _____



主イエスの 愛にただ驚く

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老

末日聖徒の愛唱する賛美歌の中に、「主イエスの愛にただ驚く」¹という言葉で始まるものがあります。その歌詞にあるように、キリストの生涯について考えてみると、すべての点でただ驚くばかりです。大いなるエホバ、天の御父の代理人、地球の創造主、そして全人類の守護者として遂行された前世での働き。またその地上への降臨、降臨にまつわる出来事、どれも驚嘆することばかりです。

主はわずか12歳にしてすでに御父の業に従事しておられました。公式な務めの開始、バプテスマと霊の賜物。これらも驚くべき事柄です。

主はどこに行かれても悪の勢力に打ち勝ってこれを追い出し、足の不自由な者を歩かせ、目の見えない者の目を開け、耳の聞こえない者を聞こえるようにして、弱い者を立たせられました。そのことにただ驚嘆するばかりです。わたしは救い主の業に思いをはせるとき、次のように考えます。「主はどのようにそれをされたのだろうか。」

主は救われる

最も驚くべきことは、イエスが重い十字架を背負ってよろめきながらカルバリの丘の頂へと登った後、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼

らは何をしているのか、わからずにいるのです」と言われたことです(ルカ23:34)。

これほど驚嘆させられることはほかにありません。わたしたち人類のすべての罪の重さに耐えながら、御自分を十字架につけようとしている人々を赦される主を思うとき、わたしの疑問はもはや「どのようにしてそれをされたのか」ではなく、「なぜそのようにされたのか」に変わっています。自分の生活を主の憐れみ深い生涯と照らし合わせてみると、主に従うための自分の努力がまだまだ足りないことが分かります。

わたしにとってこの驚きは高い次元に属するものです。わたしは、病人を癒し、死人をよみがえらせられる主の能力にこれ以上ないほど感嘆しています。しかし、癒しの経験について言えば、限られた意味でわたし自身にも経験があります。わたしたちは皆小さな器ではありますが、自らの生活や家庭において、主の奇跡が何度も行われるのを見ています。また、与えられた神権をもって主の奇跡が度々行われるのを見ています。しかし憐れみとなるとどうでしょうか。赦し、贖い、和解についてはどうでしょうか。多くの場合、それはまた別の問題です。

なぜあるとき主は御自分に苦痛を与える者たちを赦すことがおできになったのでしょうか。全身の毛穴から血を流すほどの苦しみに耐えながら、それでもまだほかの人のことを思っておられたのです。これは主が確かに完



キリストの
生涯について
考えてみると、
すべての点で
ただ驚くばかりです。
イエス・キリストは
この世で最も清く、
唯一完全な御方です。

全な御方で、わたしたちにもそうなるように望んでおられることを示す、もう一つの驚くべき証拠です。山上の垂訓の中で主は、完成がわたしたちの目標であることを指摘される前に、だれもが守らなければならない最後の必要条件とも言うべきことを次のように言われました。「敵を愛し、」「のろう者を祝福し、」「憎む者に親切に〔し、〕」「はずかしめ、迫害する者のために祈れ。」(マタイ5:44, ルカ6:27-28)

これは、どれにも増して守るのが難しい事柄です。

イエス・キリストはこの世で最も清く、唯一完全な御方です。アダムから今の時代に至るこの世のすべての人々の中で、キリストこそ崇敬と称賛、愛を受けるに値する御方です。にもかかわらず、迫害され、見捨てられ、殺されました。しかし主は、一貫して御自分を迫害した人々を非難しようとはされませんでした。

主は完全な犠牲であられる

わたしたちの最初の先祖アダムとエバがエデンの園を追われたとき、主は戒めを与えて言われました。「主なる彼らの神を礼拝し、主へのささげ物として群れの初子をささげるように……。」(モーセ5:5) また、天使はアダムに、「これは、御父の、恵みと真理に満ちている独り子の犠牲のひながたである」と言いました(モーセ5:7)。

犠牲は、わたしたちを贖うために御子が受けられる屈辱と苦痛を絶えず思い起こさせるものでした。すべてのキリスト教徒の生活の特徴づける柔和、憐れみ、温厚、すなわち赦しを常に思い起こさせるものでした。これらの理由、さらにほかの理由から、毎年、そして世代を超えて、清く汚れない、あらゆる面において完全な羊の初子が石の祭壇上でささげられたのです。これは皆、人々の心を、完全に傷も染みもない大なる神の小羊、御父の独り子、長子に向けさせました。

この神権時代において、わたしたちは象徴としてのささげ物である聖餐にあずかります。このささげ物には、わたしたちの打ち砕かれた心と悔いる霊(教義と聖約59:8参照)が表れています。そして聖餐にあずかるときには、「いつも御子を覚え、……戒めを守ることを」約束し、「いつも御子の御霊を受けられるように」と願うのです(教義と聖約20:77)。

アダムの時代においても現代においても、主の犠牲という

清く汚れない、
あらゆる面に
おいて
完全な羊の初子が、
毎年、石の祭壇上で
ささげられたのです。
これは皆、
完全に傷も染みもない
大なる神の小羊、
御父の独り子、長子を
示していました。

象徴はわたしたちが平和に、従順に、そして憐れみをもって生活することを忘れないようにするためのものです。またこれらの儀式は、十字架の上で主が示してくださったように、わたしたちが互いに忍耐と人間らしい優しさをもって、イエス・キリストの福音を実践することを覚えさせるためのものなのです。

しかし、歴史を通じて、これらの儀式を正しく行った人は少なすぎました。受け入れられない犠牲を最初にささげたの

はカインでした。預言者ジョセフ・スミスはこの件について次のように述べています。「アベルは神に羊の群れの初子を犠牲としてささげ、神はそれを受け入れられました。カインは地の産物をささげましたが、神はそれを受け入れられませんでした。なぜならば、カインは……天の計画に反〔して〕信仰を働かせることはできなかったからです。人を贖うには、独り子の血が流される必要があります。これが贖いの計画であって、血が流されなければ、赦しはないのです。犠牲とはそもそも、神が備えてくださった大なる犠牲を人が識別できるように予型として定められたものです。ですから、この定めと相いれない犠牲をささげつつ、同時に信仰を働かせることなど不可能なのです。贖いはそのような方法によって実現されたものではありませんし、贖罪の力もそのような秩序に基づいて効力を及ぼすものではありません。……確かに、動物の血を流すことは人にとって

何の益にもなりません。そのような行為に意義があったのは、それが、神御自身の賜物を通してささげられる犠牲の模倣、予型、説き明かしとして行われたからです。』²

現代でもわたしたちの中には、少々カインのように、聖餐にあずかって家に帰った後に、家族と口論したり、うそをついてだましたり、隣人に腹を立てたりする人がいます。

イスラエルの預言者サムエルは、犠牲のほんとうの意味を踏まえずにそれをささげても、何の役にも立たないと述べています。イスラエルの王サウルが、主の命令に背いてアマレク人のところから「主にささげるために、羊と牛の最も良いものを」引いて帰って来たとき、サムエルは叫びました。「主はそのみ言葉に聞き従う事を喜ばれるように、燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。」(サムエル上15:15, 22)

サウルは真の意味を理解せずに犠牲をささげました。末

日聖徒も、聖餐会に忠実に出席はしても、その結果前にも増して憐れみ深く、忍耐強く、あるいは寛大にならなければ、サウルと大した違いはありません。このような人々は、儀式の形式にだけは従っても、儀式が定められた目的を理解していないのです。その目的とは、罪の赦しを求めするためにわたしたちが従順で温厚であるように促すことなのです。

主の犠牲を覚える

何年か前に、メルビン・J・バラード長老(1873-1939年)はこのように教えました。「わたしたちの神はねたむ神であられます。それは神がわたしたちに与えてくださった最も大なる賜物〔すなわち、神の長子である御子の生命〕を、わたしたちが一度たりとも無視したり、忘れたり、取るに足りないことと考へたりしないためです。』³

それでは、神がわたしたちに与えられた最大の賜物を無視したり、軽んじたり、忘れたりしないようにするためには、どうしたらよいのでしょうか。

それには、わたしたちが罪の赦しを望み、祈りの中で最も勇気ある祈り「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」に対して永遠に感謝していることを示さなければなりません。また、罪を赦すように努力しなければなりません。

「〔パウロはこう命じた。〕

『互に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。』

(ガラテヤ6:2)……わたし

たちが全うすべきキリストの律法

とは、十字架を背負うことです。すなわち、わたしにとって負わなければならない兄弟の重荷とは、単にその人を取り巻く境遇〔および事情〕だけでなく、……文字どおりその人の罪をも指しているのです。その罪を負う唯一の方法とは、それを赦すことです。……赦しはキリストのように耐えることであって、これはキリスト教徒が負わねばならない義務です。』⁴

キリストが「父よ、彼らをおゆるしてください」と言われたのは、これこそまさに御自分が地上に来て永遠に伝えようとしたメッセージであることを、あの恐ろしい苦痛に耐えているときでさえ承知しておられたからにほかなりません。主が来て、人類家族に赦しを与えられたのは、不正や非道、冷酷や不従順があったにもかかわらずそうされたのではなく、だからこそ、そうされたのです。もし主がその使命をお忘れに





なっていたなら、救いの計画はすべて無意味なものになって
いたでしょう。だれでも機嫌のいいときは快活で忍耐強く、
寛大になることができます。しかし、キリスト教徒はどのよう
なときでも快活で忍耐強く、寛大でなければなりません。

皆さんの周りに赦しを必要としている人はいないでしょ
うか。家族や親族、近所の人の中に、不正や不親切、あるいは
キリスト教徒らしからぬことをした人はいませんか。わたし
たちは皆、このような過ちを犯します。ですから、皆さんの赦
しを必要としている人が必ずどこかにいるはずで

それから、被害者が加害者を赦す重荷を負わなければなら
ないのは不公平だ、などと言ってはなりません。「正義」の
要求はむしろ逆であるなどとも言わないでください。自分の
罪については、正義を求めはしないでしょ

う。わたしたちが
請い求めるのは憐れみです。そして憐れみこそ、わたしたち
が喜んで示さなければならないものなのです。
人を赦すことを拒んでおきながら、実は自分が最も赦
しを必要としているという、悲しい皮肉がそこにあり
ます。恐らく最も崇高で純粋な行いとは、冷酷、不
正な扱いを受けた後でも、心から真に「敵を愛し、
のろう者を祝福し、憎む者に親切にし、はずかしめ、
迫害する者のために祈」っていると

喜びの再会

数年前ソルトレーク国際空港で見た一つの場
面を思い出します。その日わたしは飛行機を降
りて、ターミナルビルへ入りました。空港には宣
教師の友人や親族だと一目で分かるような一団
がいましたので、宣教師が帰って来るのだと
すぐに分かりました。

どれが宣教師の家族だろうかと眺めてい
ると、何となく体にぴったりしない、やや流行
遅れの背広を着心地悪そうに着ている父親
の姿が見えました。農家の人らしく、日焼け
した顔と節くれ立った大きな手が目立って
いました。

母親はとともやせていて、これまで
一生懸命働き続けてきた人であること
が分かりました。手にはハンカチを
握っていました。かつては丈夫な麻のハ
ンカチだったのでしょ

り紙のような感じになっていました。帰って来る宣教師の母親にしか分からない期待と心配から、手の中でほとんどクシャクシャになっていたのです。

弟や妹が2、3人辺りを走り回っていましたが、そこで展開されている場面にはほとんど気がついていない様子でした。

歓迎陣の中から最初に宣教師に駆け寄るのはだれだろうかとわたしは考えていました。母親のクシャクシャになったハンカチを見て、最初に駆け寄るのはきっと彼女だろうと思いました。

腰を下ろしていると、いよいよ宣教師の姿が見えました。周りに群がった人々の歓声で、彼がその人だと分かりました。帰還宣教師はさながら司令官モロナイのように見えました。清潔な感じで、立派な、背筋の伸びた背の高い青年でした。伝道が父母に強い犠牲を、疑いもなく承知していたのでしよう。

彼が近づいて来ると、案の定、待ち切れずに駆け出して行った人がいました。母親ではありませんでした。弟や妹でもなかったのです。父親でした。日焼けした、あの無口で少々不格好な大男が、息子に駆け寄り、しっかりと腕に抱いたのです。

宣教師は身長が6フィート2インチ(188センチ)くらいありましたが、この大柄な父親は息子の体が宙に浮くほど抱き上げ、長い間離そうともしませんでした。息子をただじっと抱いたまま、一言も言いませんでした。息子の方も父親の首に両腕を回し、二人はしっかりと抱き合っていたのです。永遠という時間が一瞬止まったように思えました。このような神聖な瞬間に敬意を表するために、全世界が静まり返ったかのようでもありました。

そのときわたしは、永遠の父なる神のことを思い浮かべました。御父は、御子が仕えるために出て行き、そうする必要がなかったにもかかわらず犠牲を払い、御自身の代価を払われるさまを御覧になっていたのです。代価とは、いわば、差し出すために主が生涯をかけて備えられたすべてのものに相当したのです。このような貴い瞬間に、御父が聞く耳を持つ者に向かい、多少の感情を込めて次のよう

に言っておられる御姿を想像するのは難しいことではありません。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」(マタイ3:17) また、勝利を得て帰って来られた御子が「すべてが終った(ヨハネ19:30)。父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」(ルカ23:46)とおっしゃる御姿を目に浮かべることが出来ます。

奇しき主の御業

わたしの限られた想像力をもってしても、このような天での再会を思い浮かべることができるのです。皆さんもわたしも同様の再会を果たすことができるように祈ります。和解、赦し、憐れみが得られるように、そしてキリスト教徒として成長し人格を磨いて、このような瞬間を心ゆくまで味わうことができるように祈ります。

わたしのような者にもチャンスが与えられているのです。わたしはこのことに驚嘆せずにはいられません。もしわたしが「良い知らせ」を正確に理解しているのであれば、確かにチャンスがあります。望みを失わずに努力し続け、ほかの人も同じ特権を得られるようにするなら、わたしにも皆さんにも、だれにでもこのチャンスがあるのです。

おごれるわれを救うために
み座を降りし主に驚く……
突き刺されし主の手を思い
その愛と恵み忘れ得ず
み座の前にひざまずいて
主のみ恵みをたたえまつらん……
ああ、奇しき主のみ業⁵ ■

1985年11月24日、ソルトレーク神殿の神殿ワーカーへの説教から。

神がわたしたちに 与えられた 最大の賜物、

すなわち神の長子である

御子の生命を

無視したり、軽んじたり、

忘れたりしないように

するためには、

どうしたらよいのでしょうか。

それには、わたしたちが

罪の赦しを望み、

「父よ、彼らを

おゆるしてください。

彼らは何をしているのか、

わからずにいるのです」という

祈りの中で最も勇気ある祈りに

永遠に感謝していることを

示さなければなりません。

また、罪を赦すように

努力しなければなりません。

注

1. 「主イエスの愛に」『賛美歌』109番
2. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』(メルキゼデク神権と扶助協会の教科課程、2007年) 48
3. メルビン・J・バラード、*Crusader for Righteousness* (1966年)、136 - 137
4. デイトリック・ボンホフナー、*The Cost of Discipleship*、第2版(1959年)、100
5. 『賛美歌』109番



神殿に集いなさい

七十人会長会

クラウディオ・R・M・コスタ長老

1992年、ベネディクト・カルロス・ド・カルモ・メンデス・マルティンズは、いちばん近くの神殿に家族を連れて行こうと決心しました。実は、ブラジル北部のマナウスにある自宅からその困難な往復旅行をするには、15日間も仕事を休む必要がありました。しかし、勤め先の会社にとって多忙な時期だったので、上司は休暇を与えるのを拒みました。

それでも彼の家族は、神殿への旅行を実現するために貯金し、犠牲を払い、すでに準備を整えていたので、何とかして出発できるよう祈りました。彼らの祈りは、すぐに聞き届けられました。

マルティンズ兄弟は次のように語ります。「旅行の前日、わたしは寄生虫に感染していると診断されたのです。病気になるなんて、ほんとうに幸運でした。」

すぐに医師は、処方箋とともに、2週間の療養を要するという診断書を書いてくれました。規定によって、会社は休暇を与える義務があったのです。翌日、家族は神殿へと旅立ちました。

「わたしは薬を持って出かけ、旅行の間、何回か注射を打ってもらいました」とマルティンズ兄弟は語ります。旅行から戻るまでに、マルティンズ兄弟の病気は完治していました。

彼はこう言っています。「わたしは神殿の儀式、特に妻と3人の子供たちと結び固められた儀式に対する信仰と証に満たされて家路につきました。」

2005年にマナウスがベネズエラ・カラカス神殿地区に属するようになるまで、最も近い神殿は数千キロ離れたブラジル南東部にあるブラジル・サンパウロ神殿でした。マナウスに住む末日聖徒の中には、神殿に行こうという固い決意のために、自宅や乗り物、仕事道具など、値打ちのある物は何でも売り払って費用を捻出した人たちもいました。

サンパウロにたどり着くために、会員たちはボートに乗ってネグロ川をアマゾン川との合流点近くまで行き、そこから東へ70マイル(約115キロ)先のマデイラ川まで進みました。そしてマデイラ川をさらに南西へ、ポルトベリヨ市を目指して600マイル(約965キロ)を超える船旅をするのです。ポルトベリヨ市からはバスに乗り込み、今度は1,500マイル(約2,400キロ)の険しい道のりを揺られながらサンパウロへと向かいました。主の宮で奉仕した後、聖徒たちは再び7日間かけて帰路についたものです。

マナウスからカラカスの神殿へ向かう最初の旅行を準備したとき、聖徒たちは喜びのあまり



世界中の多くの末日聖徒にとって、神殿への参入には大きな犠牲が伴います。ブラジルのマナウスからカラカスの神殿へ向かって最初の旅行をしたとき、聖徒たちは喜びのあまり大声でこう言ったものです。「これからは神殿に、たった40時間で行けるんだ。」

大声でこう言ったものです。「これからは神殿に、たった40時間で行けるんだ。」カラカスに着くまで聖徒たちは、1,000マイル(約1,600キロ)の道のりをバスに乗ったまま、辛抱強く座っていなければなりません。途中では、アマゾン密林地帯の未開地を通り抜け、ブラジルとベネズエラ間の国境で大型バスから小型バスに乗り換える必要もありました。移動距離は短くなりましたが、ビザ取得の費用が加わったため、神殿への旅行には以前と同様、金銭面でかなりの犠牲が求められました。

船旅の間、聖徒たちは「起て、宮に入りて」を歌いました。¹心を常に自分たちの旅行の目的に向け、敬虔な雰囲気を保つために、バスの中でファイヤサイドを開いたり、「主の山」などの教会が制作した映画を見たりしました。

最初の神殿旅行に参加した会員たちの手によって編さんされた旅行日誌には、自分たちが払った犠牲についてではなく、受けた祝福について、数々の思い出が綴られています。ある姉妹はこう記しています。「今日、わたしは初めて神殿へ向かっている。昨日、教会員になって20周年の記念日を祝ったが、これまで多くの年月と時間をかけて、この日を迎えるために待ち続け、準備してきた。友達や神権指導者の皆さんに心から感謝している。特にイエス・キリストとその贖い^{あがな}に対して、また天の御父の宮に行くこの機会に対して、感謝と喜びで胸がいっぱいだ。」

この神殿旅行で、妻や子供たちと結び固められた一人の兄弟は、「神殿は永遠とは何かをかいま見せてくれた」と語っています。「神殿で交わした聖約を守るなら、もっと幸福になり、さらに豊かな生活を築けることに、一点の疑問も抱いていない。わたしは家族を愛している。日の栄えの王国で家族とともに住むためにできることは、すべて行うつもりだ。」

ブラジル・マナウス伝道部は、ブラジル北部の6つの州に福音を伝えるために1990年7月1日に設立されました。当時これらの州では、教会はあまり知られておらず、会員もほとんどいませんでした。しかし主がモルモン書の中で宣言しておられるように、悔い改めて、主のもとに来る者は、末日に主の



**ブラジル・マナウスに
建設が予定されている
神殿の建築完成予想図**

民の中に数えられるのです(3ニーファイ16:13参照)。

現在、アマゾナス州マナウス市内には8つのステークがありますが、ほかの州内にも幾つかのステークがあり、伝道部内には7つの地方部があります。教会の発展について、また、主の子供たちを集めるとい主の業にあって神殿が果たす役割について深く思い巡らすとき、モルモン書に記されている主の約束に思いを向けずにはられません。「そのとき、父は、御自分の民が彼らの受け継ぎの地に戻されるように、道を備えるためにすべての国民の中で業を始められる。」(3ニーファイ21:28)

1990年から1993年にわたってマナウスで伝道部会長を務めたとき、アマゾン地域の多くの人々が、回復されたイエス・キリストの福音の原則を受け入れ、教会に加わり、「聖約を交わ[す]」のを目の当たりにしました(3ニーファイ21:22)。その結果、神権の力が、とりわけ神殿の儀式を通して、この地域の人々の生活と家族に祝福をもたらすようになったのです。

2007年5月、ブラジル国内で6番目の神殿がマナウスに建設されることを大管長会が発表したとき、ブラジル北部の教会員は喜びに満たされました。マルティンズ家族をはじめ、ブラジル北部でますます増え続ける末日聖徒にとって、マナウスに神殿ができることは大きな祝福となるでしょう。それでも世界中の多くの聖徒にとって、神殿への参入には今後も大きな犠牲が伴います。

神殿の近くに住む人々が、神殿に参入する回数を増やすことによって感謝を示すことができるよう願っています。またブラジル北部の聖徒たちのように、ニーファイ人の模範に習って「大いに働き、イエスが群集に御自身を現される[神殿]に……集まることができるように」しようではありませんか(3ニーファイ19:3)。■

注
1. 『賛美歌』183番



パートメンバーの家族

——にもたらされた——

神殿の祝福

ケイ・ブルジビル

神殿に参入することで、
末日聖徒でない夫、そして
子供たちとの関係を
改善するための視点を
見いだすことができました。

19 86年6月、わたしは、自身の
エンダウメントを受けること
になっている母を乗せ、ア
ルバータ州カードストーン神殿へと車を
走らせていました。わたしはすでに自
身のエンダウメントを受けていま
しが、教会員ではない夫とわたしは、ブ
リティッシュコロンビア州のへんぴな所
に住んでいました。わたしはうっかり
して推薦状の期限を切らしてしまっ
ていました。そのため、母とは受付まで



しか一緒に行くことができませんでした。わたしは外に出て、神殿の壁に寄りかかって泣きました。

あの経験の後、神殿の外で待たなければならないようなことは二度としないと決心しました。夫は、この決心を守れるように協力してくれました。程なくして、できるかぎり頻繁に神殿に参入できるようになりました。神殿でわたしはある原則を学びました。それらの原則が、わたし個人の生活にも、家族や友人との関係にもとても大きな影響をもたらすことになるのです。

生活の変化

まず、自分の忍耐の度合いが変わったのに気づきました。それまで何年も、怒りをコントロールしようと努力していましたが、あまりうまくいきませんでした。しかし、神殿での礼拝を通して自分と天の御父との関係、また自分とほかの人々との関係について学ぶと、自分の態度が変わりました。家族や友人が、この地上に来る前から知っていた人々であるということを実感するようになりました。彼らは、わたしの人生のじゃまをしたり困らせたりする人たちではなく、必要な事柄を学べるよう、一緒に取り組んでくれる人たちだったのです。彼らがわたしに何を伝えようとしているかを分かってもらうにつれて自分の理解が増し、皆、自分のペースで進歩しているということを受け入れるだけの忍耐力を持つことができました。人生とは、他人を自分の希望に合わせた完璧な人間にしようと苦勞して教え込む場所ではなく、愛する人々とともに完成を目指す楽しい旅であることにも気づかされました。

二つ目の変化は夫に対する態度です。結婚する前、夫には家族の中心になってもらいたい、そして夫婦の関係をいつまでも続けたいと強く望んでいました。にもかかわらず、わたしは夫の選択をなかなか受け入れることができず、時には夫の習慣のために幸せな生活に波風が立つこともありました。神殿で、わたしと夫には、ともに完全な永遠の夫婦になる可能性があることを学びました。この新しい発見のおかげで、わたしたちは一緒に努力すればいろいろなことができるということが分かりました。それぞれの持つ弱さ、強さ、興味、才能がお互いをよく補い合うとき、わたしたちは独りでいるときよりずっと強いチームになることができました。

夫の相違点を受け入れることができるようになると、夫を批判する気持ちが薄れ、結婚生活に協力と一致の精神が生まれたのです。理想の自分に向けてより早く成長していることが分かりました。さらに夫も、わたしの協力的な態度を感じ取り、もっと優しく接してくれるようになりました。

3つ目の好ましい変化は、今は成人している4人の子供たちに、本人が望む人生を歩ませてもよいのだという信念を持たせたことです。それまで、自分には子供たちに決まった道を歩ませる責任があると感じていました。教会にあまり熱心に集っていない子供もいました。それでもわたしは、子供たちの選択の自由を侵害することなく、彼らに良い影響を与えたいと願っていました。ある神殿参入のとき、祈りのリストにその子供たちの名前を書き、彼らのために長い時間、心を込めて祈りまし

た。子供たちの問題は解決するという、深く平安に満ちた確信を持つことができました。

後に、その経験について思い巡らしていたとき、御父は、わたしが子供を愛する以上に彼らを愛して下さっているということを悟りました。なぜなら、御父の方がよく彼らを理解されているからです。御父は、わたしの子供たちが祝福を受け、みもとに戻って来るように願っておられます。そして子供たちに学ぶ機会を与えられるのです。今では、少しでも不安になるとその経験を思い出し、自分にできることを行うようにしています。後のことは主が行ってくださることを知っています。

4つ目の変化は、ほとんどいつも心に平安を保てるようになったことです。神殿に入ることで、永遠という観点から物事を見ることができるようになったというのも理由の一つです。主は、わたしたちが快適に暮らしていくのに十分な資源を、責任をもってこの地上に用意されました。そして、悪という砂漠の中に徳というオアシスを用意して下さっていることを、わたしは確信しています。もう自分が独りだとは思わなくなりました。聖霊はわたしの伴侶です。わたしは、祈りを通していつでも御父に話しかけることができるのです。以前は、悩みに悩んだ末に物事を決めていました。しかし今は、御霊の促しを求め、その促しに従って選ぶようにしています。また、決まった生き方を他人に押しつけることがなくなったので、「自分の救いを達成[する]」ためにより多くの時間と労力を費やすことができるようになりました(モルモン 9:27)。



神殿で、
わたしと夫には
完全な
永遠の夫婦になる
可能性があることを
学びました。
この新しい
発見のおかげで、
チームでいる方が、
独りであるときよりも
強いということが
分かりました。

この新しい視点を持たせたおかげで、肩の荷が
とても軽くなりました。主が語られたとおりです。

「わたしは柔和で心のへりくだった者である
から、わたしのくびきを負うて、わたしに学び
なさい。そうすれば、あなたがたの魂に休み
が与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は
軽いからである。」(マタイ 11 : 29 - 30)

家族の祝福

神殿で与えられる祝福が、平安、確信、忍耐
といった自分のための祝福に限られていたとし
ても、引き続き神殿に参入することは、わたしに
とって大切なことです。しかし、祝福はわたし個
人にとどまりません。ほかに、自分と家族に祝
福をもたらしたたくさんの経験がありました。

- わたしは家族歴史に取り組むようになり、
今生きている家族、そして幕の向こうにい
る家族とともに、たくさんのすばらしい経

験をしてきました。

- 1993年11月、2番目の娘が神殿で結婚し
ました。わたしは結び固めに出席するこ
とができました。
- 2006年5月、結婚37年にして夫が教会に
入りました。2007年8月、夫とわたしは結
び固められました。そして2番目の娘が
わたしたちと結び固められました。2006
年11月に自身の夫と娘との結び固めを
終えていた長女は、2008年8月にわたし
たち夫婦と結び固めを受けました。

わたしは母に永遠に感謝するでしょう。母は
わたしが7歳のときにバプテスマを受け、わた
しをこの道に導いてくれました。その後も、わ
たしがもう一度神殿推薦状を手に入れたいと
強く思う機会を与えてくれました。母の模範に
従うことにより、わたし自身にたくさんの祝福が
もたらされました。これらの祝福はわたしのほ
かの家族にも広がっていったのです。■

記憶の中の

ジョセフ



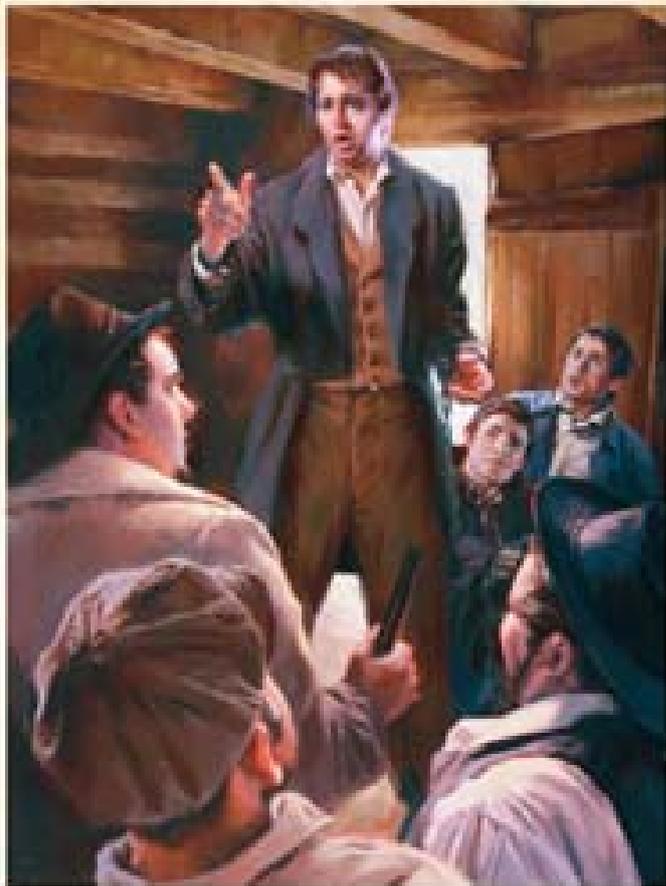
「Joseph Smith in a Dark Coat」 by William W. Hartness
© Deseret Morning News. 聖書博物館の厚意により掲載

預言者ジョセフ・スミスを知っていた多くの人々が預言者との思い出をつづっています。そうした記録の幾つかを、預言者を描いた作品とともに紹介します。記録は、絵画に描かれた出来事とほぼ同時期のものもあれば、ずっと後に書かれたものもあります。しかしそれらすべてが、ジョセフの、人として、また神の預言者としての生涯をより深く知る助けとなっています。

預言者のいとこのジェシー・N・スミスはこのように述べました。「[ジョセフは]かつて会った人の中で群を抜いて最も神に近い人物[でした]。……生来偽りを言ったり、欺いたりすることができず、最高の優しさと高潔さを備えていました。一緒にいると、わたしはすべてを見通されているのではないかと感じました。わたしはジョセフが自ら公言していたとおりの人物であったことを知っています。」¹



「森の中のジョセフ」A・D・ショー画、教会歴史系補博物館の厚意により掲載



「リチャード・スミスの預言者としてのジョセフ・スミス」サム・ローラー画

右——エメリン・ブランチ・ウェルズはこう書いています。「わたしは預言者ジョセフ・スミスの中に、聖徒たちに喜びと慰めをもたらす偉大な霊の力があるのを認めていました。……^{へんぼう}変貌していると思われるほどに神の力が預言者のうえにとどまったことが何度もありました。……預言者の顔は筆舌に尽くし難いほど輝いていました。」²

前ページ左——預言者はしばしば森の中で末日聖徒たちに語りました。アマサ・ポッターは次のように回想しています。「わたしは預言者がノーブー神殿の西にある森の中で、立ち上がって大勢の会衆に教えを説いたのを覚えています。……すべての末日聖徒は一つの〔^{たまもの}霊的な〕賜物を持っており、義にかなった生活を送り、またそれを求めることによって、^{みたま}聖なる御霊がそれを現してくださるであろう、と語りました。」³

前ページ右——パーリー・P・ブラットは、預言者ジョセフ・スミスとほかの人々が、ミズーリ州リッチモンドの監獄に囚人として捕らわれたときのことを記しています。彼らは何時間も、番兵たちの不快で冒瀆的な文句や醜悪な言葉を聞かされてきました。「突然、ジョセフが立ち上がり、雷鳴のように、あるいはほえるライオンのように、わたしの覚えているかぎり次のように言いました。『^{みな}黙れ。……イエス・キリストの御名によっておまえたちを叱責し、口をつぐむように命じる。』……おじげづいた番兵たち〔は〕……ジョセフ〔に〕……赦しを請〔い、〕……そして静かにしていました。』⁴

「わたしの僕」リズ・レモン・スワン下北画 Foundation Arts. 複写は禁じられています





Foundation Arts. 複製は禁じられています。

「花を摘んであげるジョセフ」リス・レモン・スウィンドル画
Foundation Arts. 複製は禁じられています。

上——マーシー・R・トンプソンは預言者についてこう記しています。「預言者、そしてエマ夫人と一緒に彼らの馬車に乗っていると、預言者が馬車から降り、わたしの幼い娘のために草原の花を摘んでくれることができました。」⁵

上(挿入画)——ハイラム・スミスとジョセフ・スミスが棒引きをしている姿が描かれています。モザイア・L・ハンコックはこう書いています。「ジョセフ兄弟が棒引きをしようとしました。そして、……相手をすべて、一人ずつ負かしていきました。」⁶



「ノーブー部隊を率いるジョセフ」C・C・A・クリステンセン画。ブリガム・ヤング大学付属美術館の厚意により掲載

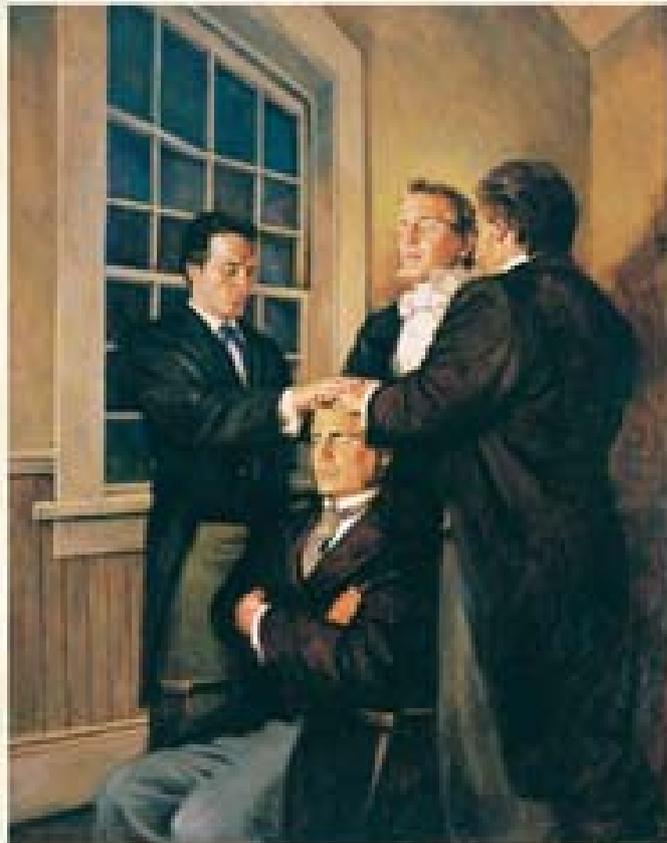
左——ユニス・ビリングス・スノーはこう記録しています。「預言者の率いる『ノーブー部隊』のパレードを見ました。……預言者はエマ・ヘイル・スミス夫人とともに馬に乗り、部隊の先頭にいました。……預言者はきれいな金髪。黒髪のエマは美しい乗馬服を着ていました。ジョセフは上から下まで軍服をまとい、エマは乗馬服に金ボタンをあしらっていました。……ジョセフのお気に入りの馬は、チャーリーという大きな黒い馬でした。」⁷

右——パーリー・P・プラットはこう回想しています。「1835年2月21日、わたしは使徒職の誓詞と聖約を交わし、ジョセフ・スミス、オリバー・カウドリ、デビッド・ホイットマーの手によって厳粛にその職、および同定員会の会員として任命および聖任された。」⁸

下——ルーシー・ウォーカー・キンボールはこう記しました。「預言者は……自分自身を通して神が明らかにされた原則のために、自分の命を犠牲にしなければならないことをよく承知していました。……わたしは、預言者が自分の血をもって自身の証^{あかし}を確実なものとするだろうと語るのを何度も聞きました。」⁹

注

1. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』(メルキゼデク神権と扶助協会の教科課程), 499
2. 『教え——ジョセフ・スミス』502
3. 『教え——ジョセフ・スミス』117
4. 『教え——ジョセフ・スミス』351
5. マーシー・R・トンプソン, "Recollections of the Prophet Joseph Smith," *Juvenile Instructor*, 1892年7月, 399
6. 『教え——ジョセフ・スミス』431
7. ユーニス・ビリングス・スノー, "A Sketch of the Life of Eunice Billings Snow," *Woman's Exponent*, 1910年9月, 22
8. パーリー・P・プラット, *Autobiography of Parley P. Pratt*, パーリー・P・プラット・ジュニア編(1938年), 95
9. ルーシー・ウォーカー・キンボール, "Lucy Walker Kimball (Autobiography)," *Woman's Exponent*, 1910年11月, 34



「パーリー・P・プラットを使徒に聖任するジョセフ・スミス、オリバー・カウドリ、デビッド・ホイットマー」ハロルド・ホフキンソン画 © 2008 年



「手綱を引き、美しいノーブに別れを告げる預言者」ハロルド・ホフキンソン画、背景は禁じられています

わずかしかなくても、 それで十分でした

スエリ・デ・アキノ

ク リスマスが間近に迫っていました。でもその年、我が家ではたくさんの食べ物もおもちゃもないままでお祝いをしようとしていました。父が亡くなり、母は少しの寡婦年金を受け取るようになったばかりで、あとはわずかな家賃収入があるだけでした。

あの日、わたしたちは、ブラジルのリオデジャネイロにあるアパートの居間にいました。部屋は静まり返っていました。そのとき突然、建物の外でだれかが来たような気配がしました。

わたしは立ち上がり、ブラインドの透き間から外を見ました。そこからは建物の入り口が見えるのです。そこにいたのは、ホームレスの女性でした。2、3個の袋を持って、ぼろぼろの服をまとっていました。わたしは、彼女が何をしようとしているのかという好奇心からしばらく見ていました。その人は小さな紙袋を開けて、クッキーを数枚取り出して食べ始めました。すると今度は、硬貨が数枚入っている小さな袋を開けて中身を数え始めました。

わたしは子供心にもその人をかわいそうに思い、そっと母を呼んで言いました。「おばあさんが外にいるよ。こっちに来て、見てごらんよ。」母も見て、気の毒に思いました。母はわたしに、いつもわずかなお金を入れている缶を持って来るように言うと、音を立てないようにアパートの部屋を出て、廊下の窓から静かにお札を落としました。

わたしはお札が落ちて行くのを窓の

わ たしたちは感謝の涙を流しました。
わたしたちの持っているものはわずかしかなくても、さらにわずかなものしか持っていない人に喜びをもたらすには、それで十分だったからです。

そばで見えていました。年老いたその女性は、お金が1枚、また1枚と落ちて来るのに気づきました。お金がどこから来るのか知ろうとして、彼女は建物の窓を見ました。窓は全部閉まっています。そのとき、すばらしいことが起こりました。彼女は天に目を上げ、しわだらけの両手を伸ばしたのです。今

度はその手を胸に当て、受けた贈り物に感謝していました。

窓にかかっているブラインドの陰で、わたしたちは感謝の涙を流しました。わたしたちの持っているものはわずかしかなくても、さらにわずかなものしか持っていない人に喜びをもたらすには、それで十分だったからです。■



国を横断して届いた クリスマスキャロル

ヘザー・ポーシャン

音 楽と歌はわたしの家族にとって常にとっても大切なものでした。子供のころ、姉がピアノを弾き、ほかの5人のきょうだいとわたしはピアノの周りで好きなクリスマスの歌を歌ったものです。それはわたしの大事な思い出の一つです。

高校を卒業すると、わたしは結婚するまで実家の近くに住んでいました。夫はわたしたちの町にある合衆国空軍基地に配属されていました。1年半後、夫とわたしは生後2か月の娘を連れて、国を横断して転勤しました。その後もう一人子供ができて、二人の赤ちゃんにかかる費用がかさんで、なかなか帰省できませんでした。実家の両親は、まだ家に子供が6人もいたので、わたしたちに会いに来てくれる余裕がありませんでした。実家から遠く離れ、軍務で夫が家を空けることも多かったので、わたしはしばしば寂しい思いをしました。特につらかったのは、クリスマスの時期です。

1996年のクリスマスイブのことで、夫とわたしは二人の幼い子供と一緒に伝統的なクリスマスのお祝いをしていました。でも、両親やきょうだいたちのことばかり考えてしまいました。時計を見ると、実家では、床の上にきちんと敷いた毛布に皆が座り、果物や小さなソーセージ、チーズ、クラッカーなどの「クリスマスのピクニック風ごちそう」を食べている時刻でした。父は聖文からキリストの降誕の話を

声に出して読んでいることでしょう。家族の顔が目に浮かびました。でも、そこにはわたしはいないのです。

深く考えながら、家族とのきずなをもっとよく感じられる方法がないかと、祈り求めました。すると突然、電話が鳴りました。母からの電話です。母はわたしに聞かせたいものがあると言いました。電話に内蔵されたスピーカーから音が出るようにして、耳を澄ますと、3人の妹が実家のピアノの周りに集まり、「あなたにも聞こえますか」というクリスマスの歌を歌ってくれました。これまで聞いたことがないほど美しい歌でした。夫とわたしは、目に涙を浮かべながら、電話の向こうの歌声に耳を傾けました。3つのパートに分かれた見事なハーモニーでした。実家にいるはずの家族がわたしたちと一緒に同じ部屋にいるように感じました。

家族の素朴な歌声は、あのクリスマスイブの日に、優しいクリスマスの精神をわたしたちの家にもたらしてくれました。わたしはその精神をいつも大切にしたいと思っています。その年のクリスマスには、たくさんのプレゼントをもらいました。店で買って丁寧に包装され、シールがはられていました。でも、わたしたちにとって最もかけがえない贈り物は、あのすばらしい歌でした。■

家 族の
素朴な歌声は、
あの
クリスマスイブの日に、
優しいクリスマスの精神を
わたしたちの家に
もたらしてくれました。
わたしはその精神を
いつも大切にしたい
と思っています。



最高の クリスマスプレゼント

ケティ・テレサ・オルティス・デ・アリスメンディ

まだ2歳だったころ、母が重い病気にかかりました。預けられる人がいなかったため、母はボリビアのトゥピサにある病院にわたしを連れて行きました。間もなく母は亡くなり、わたしは独り残されました。

幼少期から10代にかけて、いろいろな場所をたらい回しにされたわたしは、家族がどのようなものかを知らず、贈り物ももらったことはありませんでした。誕生日やクリスマスでさえ贈り物ももらうことはありませんでした。

独りぼっちだったわたしは、たくさんの試練や危険に直面しながら成長しました。そのときはまだ、自分が決して独りきりではなく、見えざる手によって守られていたということを知りませんでした。

15歳のとき、ある末日聖徒の家族から一緒に暮らしてみないかという申し出を受けました。少し年上の娘さんがいて、わたしをミュニシャルに連れて行ってくれました。皆がわたしを歓迎し、関心を示してくれました。生まれて初めて、愛と思いやりをもって接してもらえたのです。

わたしは宣教師に紹介され、福音を学び始めました。程なくして、わたしには愛にあふれた天の御父がおられることと、御父はずっとわたしを守ってくださっていたことを実感しました。わたしは福音を受け入れ、1978年のクリスマスイブにバプテスマを受け

その日の夜、わたしにとって初めての、そして今も何よりも大切にしているクリスマスプレゼントをもらいました。わたしは主の教会の会員になったのです。

ました。その日の夜、わたしにとって初めての、そして今も何よりも大切にしているクリスマスプレゼントをもらいました。わたしは主の教会の会員になったのです。

贈り物はそれだけではありませんでした。2年後、教会の会員ではない青年と出会いました。わたしはその青年を教会に連れて行きました。そして、彼が自身のバプテスマの聖約を交わした後、わたしたちは結婚しました。その後、天の御父は主人とわたしに3人の子供を授けてくださいました。子供たちはアルゼンチン・ブエノスアイレス神殿で、この世においても永遠にわたしても、わたしたちと結び固められました。

小さいころ、わたしは「身寄りのない哀れな少女」と言われていました。今、そのことを思い返すと感謝の念に満たされます。なぜなら、いつもわたしを愛してくださるお父様がいらっしゃることを知るという祝福を受けたからです。わたしはまた、救い主の限りない愛も味わってきました。主は預言者ジョセフ・スミスを通して御自身の教会を回復されました。ジョセフ・スミスは前世で選ばれ、モルモン書の翻訳に熱心に取り組みました。モルモン書には完全な福音が載せられていることを知っています。

15歳のときに、初めての、そして最高のクリスマスプレゼントを頂いて以来、わたしは主の深い憐れみに包まれてきました。今でもこの贈り物への感謝を心に抱いています。そして、来世のことをいつも忘れずに生活するように努めています。そこでわたしは御父と御子に感謝を述べ、愛する家族とともに永遠に住みたいと望んでいます。■

思いがけない教訓

エリン・ウィルソン

仕 事のためニューヨークに引っ越したわたしは、12月のある夜、新居に必要なものをそろえるため買い物に出かけました。街は吹雪に見舞われた後で、通りはひざの高さまで雪が積もっていました。わたしは暖かいダウンコートに身を包み、休日の買い物客であふれる人込みの中を駅に向かいました。

いらいらしながら電車を待つ間、わたしは何を買うかを頭の中で整理していました。やっと到着した電車に乗り込むと、席が空いていないか見回しました。最も近い空席は、年老いたホームレスの男性の真正面でした。男性には暖かいコートもなく、厚着もしていません。がらくたのような物でいっぱいのビニール袋を幾つか持っているだけです。

不快なおいのするその男性のそばに座りたくありませんでした。それに、いかつい外見をしていたので近づいては危険かもしれないと思いました。何よりも、お金をせがまれたくありませんでした。わたしはとっさに男性とは反対側の端へ行き、腰を下ろしました。ほかの乗客も皆、車両の端に行ってしまう、その男性は独り残されました。

少ししてから、一人の青年が電車に乗り込むと、ホームレスの男性の真正面に座りました。その青年は、ためらうことなくうれしそうな笑みを浮かべ、握手し、明るくあいさつしました。男性の顔がほころび、二人は楽しそうに話し始めました。それから15分間、二人は和気あいあいと話していました。

それを見ていたわたしは、クリスマスの真の精神を思い出しました。会話に熱中しながら、青年は立ち上がり、ベストとシャツ、それからその下に着ていたもう一枚の長袖のシャツを脱ぎました。下着1枚になった青年は、その長袖のシャツをホームレスの男性に手渡しました。老人は快くシャツを受け取り、二人はまた話を続けました。わたしは次の駅で電車を降りましたが、青年の優しさに感動していました。身勝手な自分のことを後ろめたく思いましたが、もっと善い人になりたいという望みがわいてきました。

王の王は、卑しい馬屋という、最も粗末な境遇の中でこの世に生を受けられました。世界は、^{たまもの} 貴い救いの賜物である神の御子を与えられたのです。わたしの人生に与えられた、救い主という賜物に感謝しています。また、神の子供たちに対する主の限りない愛と哀れみを思い出させてくれたこの経験に感謝しています。あの年のクリスマス、わたしは今よりも親切になり、自分を忘れ、救い主イエス・キリストのようになりたいという望みを新たにしました。■

そ の青年は、
ためらう
ことなく
うれしそうな
笑みを浮かべ、握手し、
明るくあいさつしました。
男性の顔がほころび、
二人は楽しそうに
話し始めました。



記事のおかげで強くなれました

ある日、わたしは断食をしていました。問題が山積みだったからです。そして2007年7月号の『リアホナ』を開きました。「スペンサー・W・キンボール だいかんちょうのしょうがいから」というシリーズの「あくから遠ざかる」という記事を読むことにしました。子供のページなので、普段なら読まない記事



です。この話は、自分を取り巻いていた悪い影響から逃れる助けとなりました。この記事から強さを得ることができました。わたしはすべての人に、『リアホナ』のすべてのページを読むようにお勧めします。

『リアホナ』は、わたしにとっての光であり守りです。友人に福音を宣べ伝えるときも、まず『リアホナ』を使っています。

コートディボアール, アルレット・アツイ

レッスンで使う奥の手

ある日、若い女性のレッスンを準備していたとき、補足資料が必要なところがあることが分かりました。そこで、優れた青少年指導者にとっての奥の手、「アロン神権者および若い女性用リソースガイド」を開きました。このガイドには、若い男性、若い女性のレッスンで補足できるよう、預言者やその他の中央幹部による最新の話や記事

の参照箇所が載せてあり、青少年が今日の問題に立ち向かう一助となっています。

これらの話や記事は、正しい経路を通して出版された真実の教義ですので、指導者として安心して使うことができます。レッスンに取って代わることはありませんが、補足として自由に使うことができます。

アメリカ合衆国, ユタ州, ジェネル・ウエルズ

大好きなページ

『リアホナ』という素晴らしい出版物を手にすることは大きな祝福です。この機関誌のおかげで、預言者の言葉を読み、世界中の兄弟姉妹の霊的な経験を知ることができます。特に「末日聖徒の声」が好きです。素晴らしい話が載っていて、自然と御霊を感じます。

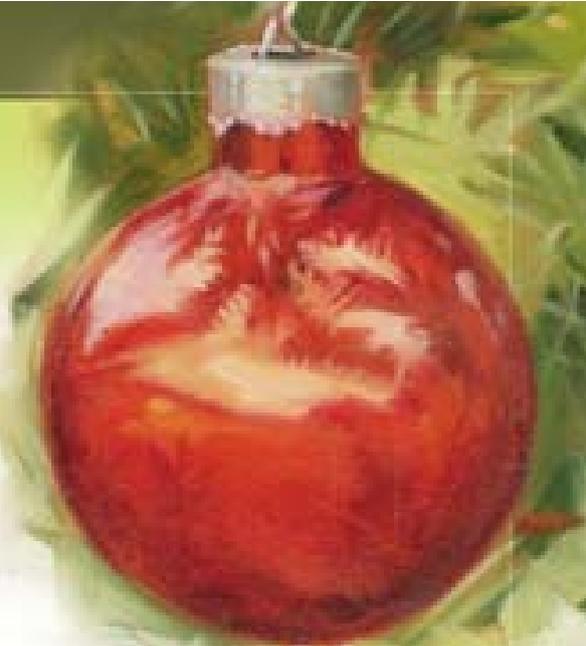
わたしはパソコンに、教会の公式ウェブサイトにある機関誌のPDF版を保存しています。御霊をいっぱいに受けられるよう、一日の始まりに記事の一つ読んでいます。『リアホナ』に感謝しています。

コロンビア, オスカル・ハビエル・アルバレス・ゴメス

効果的な手段

効果的な道具である『リアホナ』のおかげで、世界中の教会員の証と経験を知ることができます。また、指導者からの勧告だけでなく、ほかの会員についての話を読むことができるのに感謝しています。彼らの言葉は、確かにわたしを導いてくれます。また、機関誌のおかげで、世界規模での教会の発展と成長を知ることができます。

レユニオン島, ダリス・アドルフ



どうして分かったのですか

これまでに何度も、大管長会や中央幹部に手紙を書いて、「どうして分かったのですか」と尋ねたいと思いました。総大会のお話を何度も聞き、そして読むうちに、わたしの抱えている具体的な問題について、主が直接わたしに話しかけられているように感じたからです。これらの経験から、天の御父がどれほどわたしを愛し、わたしがもっと善い人になるために手を差し伸べておられるかが分かるようになりました。総大会の話は、どこにいてもわたしのもとに届きました。たとえ遠くにいてもです。それらの話は、時には悔い改めの呼びかけ、時には導き、時には慰めとなりました。これらの記事を通して、天の御父がどんなにつぶさにわたしを見ておられるかが分かりました。自分が天の御父のお気に入りの子供になれたように感じるのがよくあります。

アメリカ合衆国, モンタナ州,
チャーリー・クレンショー



おきなご
「幼子イエス」 ジェレミー・ウィンボーグ

イエス・キリストは「わたしたちの先祖の地であるエルサレムで、マリヤからお生まれになる。マリヤは聖霊の力により覆われて身ごもり、男の子、まことに神の御子をもうけるおとめであって、尊い、選ばれた器である。」(アルマ7:10)



2 902022 923009

02292 300